

# 東京瓊林

No.151  
2023.3



長崎駅前整備事業と西九州新幹線  
(撮影者:川崎 圭一学 29)



瓊林会 東京支部

長崎高等商業学校 校歌

牛島 秀雄 作詩 島村 吉門 作曲

<p>5 三年鍛へし此の腕 覇者の冠飾るべく 希望輝く星影に</p>	<p>4 桂の水棹蘭の槳 行手を啓示す商神の 寄せ来る権力集う富</p>	<p>3 凶南の翼収めつつ 健児五百の渾身に 香しき哉校風は</p>	<p>2 扇嶼の沖に沈む陽の 龜嶺の山の夕ぐもに 見よ靈鶴の羽ばたきて</p>	<p>1 暁星淡く瞬きて 海高鳴りて新潮に 此処の水門に運びたる</p>
<p>競ひの場に矛執れば 橄欖いまや若葉はぬ いざや謳はむ国の榮</p>	<p>月の御船に打ち乗りて 指す俣に漕ぎ行けば 是ぞ吾儕が使命なる</p>	<p>扶揺万里の風を待つ 自疆の精神漲りて 虚空に高く薫るなり</p>	<p>彼方黄金の波立ちて 奇しき福利の響あり 翔けるは何処西の空</p>	<p>金鷄夢を破るとき 文華を西の国人が 光榮ある瓊の浦曲哉</p>

瓊林会東京支部所在地



瓊林会 東京支部

〒 160-0004  
東京都新宿区四谷 1-10-2  
長崎県東京産業支援センター 301  
T E L : 03-6240-0532  
E-mail : info@tokyo-keirin.jp

ホームページ ;  
<http://tokyo-keirin.jp>

【アクセス】

- ・ JR 中央線・JR 総武線 「四ツ谷駅」 四谷口 徒歩 3 分
- ・ 地下鉄 東京メトロ丸の内 「四ツ谷駅」 赤坂口 徒歩 3 分
- ・ 地下鉄 東京メトロ南北線 「四ツ谷駅」 四谷口 徒歩 3 分



## 巻 頭 言



支部長 国広 昭彦

コロナ禍の生活も4年目に入りました。瓊林会東京支部もWithコロナの考えで、まだまだ不十分ではございますが、この1年新しい体制を組んで同窓会活動を再開させて頂きました。7月のZOOMを活用したハイブリッド方式での「東京支部定例総会」の開催を始め、「支部会員との意見交換会」(3回)、本部とタイアップした「金融市場体験学習」の3年ぶりの開催、「旧制三高商(小樽商科大学、山口大学経済学部、長崎大学経済学部)意見交換会」(2回)、11月には「クラシックギターと懇親の夕べ」と題して、益田正洋(学48)さんのギター演奏会と懇親会を開催させて頂きました。これも、ひとえに会員の皆様のご支援の賜物と、改めて感謝申し上げます。一方で、少し残念なのはコロナで高商歌を歌えていないことです。皆様と肩を組んでの高商歌は丸3年歌っていないことになります。

長崎高等商業学校校歌「暁星淡く瞬きて」は、学校創立(1905年)の5年後の明治43年(1910年)に校歌として制定されています。当時長崎高商に在学中の牛島秀雄氏(高商6回卒)の歌詞と、長崎師範学校教授島村吉門氏(東京音楽学校卒)の作曲により誕生しました。長崎の歴史、高商創立の精神、海外を目指す方向性、学生の使命、長崎高商の誇り等が謳い込まれた名曲だと思います。

校歌は学生の意識付け、統一性に有効で、「校歌で理想像を印象づける」という考え方が、「フランス革命」を基にしているとされています。フランス革命は、フランス国民が自由・平等な社会を築くため、王政に対して起こした革命運動ですが、この時に、国民の心をつなぐため「ラ・マルセイエーズ(La Marseillaise)(フランスの国歌)が歌われました。明治政府は、学校教育にフランス国歌の起源となった「全員で同じ歌を歌うことが、意思統一に役立つ」という考えを取り入れ、これが校歌の誕生に繋がったとされています。

しかし、明治期の旧制高校には、寮歌はあれども校歌の無い学校も多かったようです。旧制高校による「日本寮歌祭」のネーミングも納得がいきます。校歌を歌いたくても無いのです。旧制一高も寮歌「嗚呼玉杯に花うけて」(1902年)等是有名ですが、校歌は無いようです。大学の校歌第一号は早稲田大学「都の西北」(1907年)とのことです。そう考えると、我々は歌える素晴らしい校歌が在り、1910年の制定という校歌の歴史的深さを考えると極めて誇らしいことです。しっかりと歌い継ぐことが伝統を繋ぐ上でも重要と考えます。

今年こそは皆さんと、「暁星淡く」を、校歌の精神(こころ)と伝統を噛みしめながら、心をつなぐにして、何度も声高らかに歌えればと願います。そして瓊林会東京支部を少しでも盛り上げて行ければと思います。

「希望輝く星影に いざや謳わん国の栄 いざや謳わん国の栄」  
引き続き、宜しく願い申し上げます。



# 『東京瓊林』第151号 目次

瓊林会東京支部の案内図／長崎高等商業学校校歌 .....表紙裏面  
巻頭言 / 瓊林会東京支部支部長 国広 昭彦

## 【支部活動報告】

東京支部定時総会令和4年度報告及び令和5年度ご案内	1
金融市場体験学習の報告 / 参加学生感想 学29 国広 昭彦	2
長崎大学経済学部3年 山口七愛 / 元村 葵	4
キャリアデザイン講座を終えて 学35 佐々木 里香	6
キャリアデザイン講座の講義を振り返って 学35 石井 政敏	7
クラシックギターと懇親の夕べ 学29 堀内 宇	9
瓊林友の会オンライン談話サロン 学09 伊津野 平	10

## 【投稿記事】

我が愛する“青春の隠れ家”～フォーク酒場神田「昭和」～学29 国広 昭彦	13
秘境に約500年続く～長崎の伝統祭りのご紹介 院16 中村 奈美	16
コロナ禍を越えて集う(学29 互禄会) 学29 増田 義弘	23
長崎大学経済学部ラグビー部の思い出 学31 北浦 弘徳	25
応援団の思い出 学30 田中 久也	27
「手考足思(しゅこうそくし)」の日々 学40 小山 貴子	29
下宿のオバサン 学28 今泉 一隆	31
8大学OB会に参加して 学31 井上 勝康	33
経済学部→ジュリアード音楽院、そしてプロギタリストへ 学48 益田 正洋	36

## 【サークル・同好会だより】

NMEファミリーコンサート報告 学12 川口 恒夫	38
囲碁海外遠征(2) 中国 学12 高本 正	39
俳句同好会より 学12 稲山 清紀	41

## 【お知らせ】

長崎市恐竜博物館ご案内	長崎市東京事務所	42
-------------	----------	----

## 【事務局より】

敬 弔	44
前年度会費納入者一覧	45
前年度寄付者一覧	47
2023年度東京支部収支予算案	48
瓊林会東京支部役員体制	49
お願い	50
表紙・編集後記	51

## 令和 4 年度東京支部定時総会のご報告

去る 7 月 30 日（土）、令和 4 年度瓊林会東京支部定時総会を開催いたしました。  
公益社団法人瓊林会喜多村会長を迎え、役員・運営委員参加で、会員の皆様には、書面審議の上、リモートで配信いたしました。

開催日：令和 4 年 7 月 30 日（土） / 会場：主婦会館プラザエフ（千代田区六番町 15）  
式次第

1. 開会
2. 公益社団法人瓊林会会長 喜多村 円氏 挨拶
3. 瓊林会東京支部 国広支部長挨拶
4. 議題（議長 国広支部長）  
第 1 号議案 令和 3 年度決算報告  
第 2 号議案 令和 4 年度活動計画と予算案  
第 3 号議案 役員交代
5. 書面審議結果 書面審議 365 内 回答数 224、了承 224

## 令和 5 年度東京支部定時総会のご案内

日時：令和 5 年 7 月 8 日（土） 11：00（開会）～ 15：30（閉会）

会場：主婦会館 プラザエフ

東京都千代田区六番町 1 5

JR 四ツ谷駅 麴町口 徒歩 1 分、地下鉄 四ツ谷駅 徒歩 3 分

式次第： 11：00～ 令和 5 年度東京支部定時総会

第 1 号議案 令和 4 年度決算報告

第 2 号議案 令和 5 年度活動計画と予算案

第 3 号議案 役員交代 ほか

11：30～ 講演会

13：00～ 懇親会（15：30 閉会予定）

会費：6,000 円（予定）

## 「金融市場体験学習」を3年ぶりに開催①

学 29 回卒 国広昭彦

公益社団法人瓊林会（本部）の現役学生支援の一環として、瓊林会東京支部との連携で「金融市場体験学習」が今年の9月に3年ぶりに開催となりました。これは長崎大学経済学部の現役学生（3年生）を対象に、我が国の金融の中心である東京に招待し、生の金融市場を見てもらって、文字通り体験して学んで貰う企画です。

2022年9月に2グループに分け、前半が3名、後半が4名の少人数で、東京日本橋の証券会社を拠点に各々2日間の体験学習を実施しました。

初日は、日本銀行本店及び貨幣博物館の見学、証券会社のトレーディングルームでの研修です。

日本銀行については、日銀本館を見学し、建物の説明から、日銀の歴史、機能役割まで、専任スタッフによる説明を受けました。日本銀行本館は、東京駅丸の内駅舎などの設計で有名な「日本近代建築の父」と言われる辰野金吾によるもので、1896年（明治29年）竣工した歴史的な建造物です。これは、日本人建築家が手掛けた最初の国家的近代建築で、国の重要文化財に指定されています。筆者も長年日銀のすぐ近くに勤務しながら本館内部に入るのは初めてでした。建物の重厚感や歴史的な意味合いに改めて感じ入りました。正にここでしか体験できない学習になったと思います。

証券会社では、外部者には公開していない証券会社の中核とも言えるトレーディングルームで研修致しました。株式市場や債券市場等時々刻々と動くマーケットに触れ、実際目の前で動いている経済の鼓動を感じられたのではと思います。研修でのレクチャーも、担当部長から若手社員と専門的な話から職場の雰囲気まで、大学の講義やネット情報等では味わえない実学が体験できたと思います。

夜は、再開発で変貌著しい東京駅八重洲のイタリアンでささやかな懇親会を開催致しました。今回の体験学習は女子学生が多かったこともあり、経済学部OGで、社会保険労務士であり株式会社フォアアンド代表取締役をなさっている小山貴子氏（学40）にも懇親会に参加頂きました。小山さんは、アクティブな女性として社労士のみならず、各種コンサルタント、上場会社の社外取締役等多方面でご活躍されていて、ご自身の体験談や仕事に対する考え方をお話頂き、女子学生も小山さんの話で目の輝きが変わるほどでした。また、証券会社の若手管理職としてご活躍なさっている金澤孝典氏（学54）にも懇親会に参加頂きました。金澤さんは証券会社の幅広い業務に精通していて、金融体験学習ということで、学生からの質問に対しても分かりやすく丁寧な説明をして頂き、心強い「助っ人」となりました。

## 「金融市場体験学習」を3年ぶりに開催②

学 29 回卒 国広昭彦

二日目は、日本橋兜町の東京証券取引所からスタートです。東京証券取引所は、1878年（明治11年）渋沢栄一等によって設立された東京株式取引所が源流となっています。日本国内に上場されている企業（約3,800社）の大半が東京証券取引所で売買されていて、我が国の資本市場の殿堂的存在です。東京証券取引所でも、専門スタッフによる説明を受け、最後は株式投資の模擬売買の体験もして頂きました。

次に訪れたのは、投資信託の運用会社です。個人投資家や機関投資家から集めた資金で世界中の有価証券に投資をする運用専門会社です。ここではファンドマネージャーと呼ばれる直接運用を行っている担当者に講義をお願いしました。株式運用のプロからの独特な企業観は、学生の企業イメージとのギャップもあり大きな刺激になったようです。

最後は証券会社に戻り、証券会社のリサーチ部門（情報部門）での体験です。ここでは、若いアナリストから担当部長を交えた学習が行われました。日々の情報収集の積み重ねから、情報発信まで様々な内容を分かり易く解説して頂きました。レクチャー陣には若い女性アナリストもいて、学生の皆さんの印象も少し変わったようです。

「金融市場体験学習」を通じ、学生の皆さんは、実際の目で見て、そこで実際の業務に携わっている人から直接話を聞き、机上では得られない学習ができたと思います。今回の体験学習が学生の皆様の今後の研究や就職活動の一助になればと思います。



東京証券取引所前



日本銀行本館前（中庭）

## 金融市場体験学習の感想レポート①

長崎大学経済学部 3 年 山口 七愛

この度は、金融市場体験学習という機会を設けていただきありがとうございました。多くの方々のご協力の上、私がこのような体験ができたことを実感いたしました。今回、証券会社への企業訪問があり、普段見ることのできないトレーディングルームの見学や、各部署の社員の方のお話を聞くことができました。

元々、証券会社はお堅い会社だと思っていましたが、証券会社はアットホームな雰囲気を感じました。また、営業のイメージが強かったのですが、1つの証券会社だけでもトレーディング業務から市場調査などさまざまな業務があり、他の業種・企業も知らないことがたくさんあると思うのでいろんな業界を見たいという気持ちになりました。株を見ていると世の中のことを知ることができるのは魅力的な仕事だと思いました。

アセットマネージャーの方がおっしゃっていたことで印象に残っていることがあります。就職ランキング上位には食品メーカーが上がっているが、規模としては、有名企業でもそこまで大きくはないということです。就活をする上で、普段目につきやすい B to C の企業だけでなく、B to B の企業ももっと知りたいと思いました。また、投資について質問したとき、今、10万円を株などで20万円にするよりも、将来の給料を10万上げることに投資した方が良くとおっしゃっていたのも参考になりました。先のことを見据えた上で、今の行動を考えなければいけないと感じました。

私は、将来仕事をするとき、営業職はできるだけ避けたいという気持ちがありますが、地方で働くことになると、本社が東京などにある企業では、総合職として働くなら、本社になると思うので、何を優先する事項か等も決めていかなければならないと思いました。今回の体験では、本当に有意義な時間を過ごすことができました。貴重な体験をありがとうございました。

## 金融市場体験学習の感想レポート②

長崎大学経済学部 3 年 元村 葵

今回の体験学習では、実際の現場を見たり働いている方々からリアルなお話を聞いたりなどとても貴重な体験をすることができた。トレーディング業務研修では、初めて聞くような専門的な単語が多くあり理解するのが少し難しかったが、これからニュースや新聞から情報を得る際に役に立つような知識を多く得ることができた。

今回の体験学習の中で、特に証券会社では多くの情報を持っていることが大切だということがわかった。私は証券に興味があるので、これから毎日、日経新聞を読んで、社会の経済の流れを取り入れていきたいと思った。

今まで証券会社の仕事は営業のイメージがあったが、部署によって仕事内容が全く異なり、それぞれの業務の楽しさや大変さについてお話を聞くことができるととても勉強になった。今回お話しした職員の方々は皆楽しそうに仕事について話している印象があり、自分もそのように楽しいと感じられる職場に就きたいと感じた。

日本銀行や東京証券取引所では、日本の金融の歴史を資料等を直接見て学ぶことができ、大変貴重な時間を過ごすことができた。株のシュミレーションでは、実際に自分で株の売買を体験することができて、とても楽しかった。今回の体験では証券についてはもちろんだが、就活において大切なことについても学ぶことができた。

ネットで調べるのとは違って、実際の職場を見たり職員の方と話したりすることで、リアルな雰囲気味わうことができた。この金融市場体験学習に参加できて心から良かったと思う。瓊林会の方々に感謝します。

## キャリアデザイン講座を終えて

学 35 佐々木 里香

令和 4 年 10 月 19 日、私は 3 年ぶりに開催されたキャリアデザイン講座（実学セミナー）のサービス業の講師を務めさせていただきました。

1 ヶ月前に開通したばかりの西九州新幹線で長崎に向かいましたが、眺めるのが楽しみだった有明海の景色はすっかりトンネルに変わってしまい、到着した長崎駅は真新しい高架の駅舎になって学生の頃先輩や同期を見送ったホームがなくなってしまったことに少し寂しさを感じました。

講座は約 70 名の学生が出席し、事前に寄せられた約 40 の質問状をもとにした質疑応答の形式で行われました。質問内容は業界や会社の情報、業務や制度など多岐に渡っていましたが、新入社員に求められることや優秀な人材の人物像、採用や育成制度、学生のうちに身につけた方がよい力等、就職活動に直結するような内容に関心が高く、熱心にメモを取っていました。

ご一緒した谷口俊也先輩（学 29 回・北港化学株式会社）の体験談を交えた軽妙なトークにも助けられ、あっという間に 1 時間半の講義を終えることができました。後日学生から、自分の価値を高めるよう自己研鑽する、やり遂げる大切さを学び今後に活かしたい等のコメントをいただき、少しはお役に立てたかなと思っています。講座の最後には即興で学生へのメッセージを求められましたが、奇しくも二人とも「頼れる仲間を作ってほしい」でした。

深浦学部長に伺ったお話によると、新型コロナの影響で、出席した学生は今までずっとリモート授業のみで今年になってやっと対面授業が開始されたとのこと。学生と雑談する機会はありませんでしたが、ゼミや部活もままならず、芝コンもしたことがない人がほとんどでしょう。私は学生の時に経済祭実行委員を務めましたが、その当時は近隣を練り歩く樽みこしや提灯行列、著名人の講演会やコンサート、各部の出店、運動会、地域の方への感謝を込めた野菜の特売といったイベントが目白押しでした。

体育会系、文科系の各部、ゼミ幹等から選出されたメンバーは、何ヶ月も前から打合せを繰り返し、開催日近くになると夜遅くまで扶揺会館の一室に籠って準備に明け暮れ、期間中は其々の役割をこなして夜の見回り後報告会。経済祭終了後に収支決算と反省会を行って、一連の活動終了。とても大変でしたが充実感と達成感を感じられた大学生活の一番の思い出で、経済祭を通じて得た仲間とはいまだに交流があり、今回の講師の際もエールをもらいました。まだまだ制限のある状況は続きますが、今の学生には、学業だけでなく、残りの大学生活を充実させてかけがえのない大切な仲間をたくさん作ってほしいと心から願っています。

## 「キャリアデザイン」講座の講義を振り返って①

学部 35 回 石井 政敏

令和 4 年 11 月 9 日に開催された「キャリアデザイン」講座の講義を行って参りました。母校で講義という大変貴重な経験をしましたので、簡単にご報告させていただきます。



いまでこそ「キャリアデザイン」というと一般的な言葉になりましたが、私が学生だった 1980 年代後半は全く聞いたこともありませんでした。当然、講義もありませんでしたがこの 10 年くらい各大学「キャリアデザイン」の講座を取り入れているようです。

我が経済学部でも平成 28 年度より従来の「実学セミナー」から今の名称に変更し、主に学生の質問に対して経済学部 OB の講師が回答する形式になったそうです。

令和 4 年度は 10 月から 1 月まで各月 1 回、10 月サービス業、11 月金融業、12 月製造業、1 月地元企業という割振りで各月 2 社登壇し講義を行っております。

10 月のサービス業では私と同期の NTT コミュニケーションズ株式会社佐々木さん（学 35）も登壇されております。



簡単に私の自己紹介をさせて頂くと学生時代は国際金融論ゼミ（故・都野尚典先生）で、昭和 62 年に経済学部を卒業後三菱信託銀行（現三菱 UFJ 信託銀行）に入社、7 年ほど前にゆうちょ銀行へ転職致しました。

銀行員と言いながら融資よりも企業の新規上場・IR 等を中心にキャリアを積んで参りました。銀行員としては邪道なキャリアなので、学生の方には銀行でもこのような仕事もあるのだと感じてもらえればと言う思いで話をさせて頂きました。

学生の皆さんからの質問は社会人になる心構えから、現在の銀行業界での最新トレンドの AI・DX について、また勤務した会社の特長など様々で事前に 10 問以上頂き学生の皆さんも詳しく業界調査を行った上で講義に参加していることが良くわかりました。

中でも志望理由というのは鉄板の質問項目としてありましたが、私が卒業する 1987 年はバブル真っ盛りでしたので、マーケットの時価総額ベスト 10 を見てもほとんどが都市

## 「キャリアデザイン」講座の講義を振り返って②

学部 35 回 石井 政敏

銀行という時代でした。今ではトップ 10 に 1 社入るかどうかという「銀行冬の時代」ですので、学生の皆さんも金融を志望する方は減っているのかもしれませんが、40 年近く時間が経過すると業界も様々変わってくるのだと自身でも振り返って勉強になりました。

学生の皆さんに少しでもこれからスタートする就職活動や社会人になりキャリアを積んでいくための参考になればという思いでお話を致しましたが、逆に私も還暦を前にして自身のキャリアの整理ができる良い機会になったと感謝しております。

最後になりますが、今回の機会を頂いた経済学部、瓊林会、そして経済学部学生の皆さん、またいろいろサポート頂きました瓊林会東京支部安野副支部長に深く感謝・御礼申し上げます。



若い皆さんのキャリアが素敵なものとなるよう祈念しております

## クラシックギターと懇親の夕べ

学29 堀内 宇

11月16日(水) 神田神保町のbeer&wine dining エスペリアにて東京支部として3年振りとなる懇親会を開催しました。

今回の懇親会では、「クラシックギターと懇親の夕べ」として、第一部は益田正洋氏(学48)演奏会、第二部は秋の大懇親会と二部構成とし、75名の方に参加いただきました。当日、役員・運営委員は瓊林会の法被を着てお出迎え、第一部では益田氏の素晴らしいギターの音色を堪能しつつ、経済から音楽を目指した経緯やプロ駆け出し時代の苦労話などのトークで盛り上がりました。



第二部では、飲食時以外はマスク着用しながら、テーブルのあちこちで旧交を温めていただきました。参加された方々はこの3年間、同窓会の活動は控えられてきましたが、この懇親会をきっかけに同窓の輪を広げていただけました。

最後は暁星淡くを歌って締めたかったのですが、残念ながら飛沫感染防止から円陣を組んでの合唱は止め、ステージ正面に片淵キャンパスの映像と曲を流し、参加者が手拍子をとるに止めました。思いがけず、学30 応援団長田中久也氏の長崎大学経済学部へのエールが飛び出し、お開きとなりました。

最後は暁星淡くを歌って締めたかったのですが、残念ながら飛沫感染防止から円陣を組んでの合唱は止め、ステージ正面に片淵キャンパスの映像と曲を流し、参加者が手拍子をとるに止めました。思いがけず、学30 応援団長田中久也氏の長崎大学経済学部へのエールが飛び出し、お開きとなりました。

新型コロナの感染症法上の位置づけは2023年5月8日に、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行しても、まだまだ予断は許せませんが、来年の定時総会後には、盛大に懇親会を設けたいと思います。



75名の参加者は次の通りです。(敬称略)

学9 伊津野平 大久保哲夫、学12 川口恒夫、学14 安田正秀、学15 佐々木和行 佐々木藍子(和行様奥様)、学16 山口晋吾、学18 伊藤正 中野栄次 吉田一久、学19 松原広輝 宮本秀雄、学20 西橋時男 山内朗、学21 吉田綱一朗、学22 田川恵一、学24 井上隆、学28 今泉一隆 内山 浩一 川上 耕毅 竹内 浩一、学29 芦塚正剛 蒲原尚毅

河内優子 合屋隆司 園田秋光 長岡健 中川和彦 藤井茂樹 藤田克子 堀内宇 牧野陽一郎 松本正信 村上真由美 吉開孝人 森厚憲 渡邊俊介、学30 大賀雅徳 木村直樹 國清敏之 田中久也 塚島公明、学31 井上勝康 岸川泉 北浦弘徳、学32 杉浦美德 溝口孝弘、学34 赤木浩一 河野和成 安成貞彦、学35 安野倫男 白居のぞみ 川浪振一郎 波戸省子 林田圭史 堀田毅、学36 南田幸太郎 中村勲 池田政彦 加藤恵理子 柴田寿満、学37 窪田昌洋、学39 香山明子 片山明也 村田瑞枝、学40 徳川隆志、学41 栗木裕志、学48 益田正洋、学52 鼻崎雄治、学54 金澤孝典、院15 西崎信男、院16 中村奈美、長崎市東京事務所 梅澤泰紀 平山莉映、特別参加 岩永浩平

## 瓊林友の会「談話サロン」活動状況①

研修企画グループ長 伊津野 平 (学 09)

瓊林会本部並びに東京支部の皆様には、日頃から大変お世話になっており、感謝申し上げます。さて、瓊林友の会全体の活動状況につきましては、川口会長からご報告申し上げておりますが、その中での研修企画グループの一環としての「談話サロン」について以下ご報告申し上げます。

### ■発足からの経緯と現状

そもそも事の始まりは、およそ 13 年前、平成 21 年(2009)6 月第 1 回目講師を原田俊策氏(高商 37 故人 当時世話人代表)にお願いして「中国と日本の関係について」と題してお話を頂いてスタートした「勉強会」でありました。

切っ掛けとなったのは、故城善政氏(学 11 一昨年急逝)の発案でした。「毎月の定例役員会が終わった後に、直ぐ食事をして解散するのでは勿体ない。折角集まったのだから、出席者の中から誰かが 15 分程度のスピーチをして、それを肴にしながら談論風発、談笑しながら研鑽と親睦を図っていかうではないか。」という趣旨のものでありました。

しばらくの間、「勉強会」という呼称で続けましたが、少し堅苦しいという意見もあり、「談話サロン」に呼称変更し、今日に至っております。そんな中、毎月の定例役員会に引き続いて、同じ会場で「談話サロン」を開催して、そのあとの懇親会(“ミニ友の会”)で親睦を深めておりました。しかし乍ら、ご存知のように 3 年前からウイルス感染が全国的に広がり、一堂に会することが制約されることになり、対面での定例役員会が一時中断される事態を受け、「談話サロン」も止む無く一時中断せざるを得なくなりました。

定例役員会も「談話サロン」も中断したままではストレスが溜まる一方で、巷間オンライン会議等が流行り始めた時期でもありましたので、我々としても在宅でもパソコンやスマホやタブレットがあればリモート開催出来るのではないかと模索しておりました。そんな折、会長の会社後輩でもある中山良一会員(学 20、アジア社長塾代表)



から「オンライン講座」に招待され、前任者の故城善政氏(前述)他瓊林友の会役員数名が参加して、我々もやってみようということになりました。さはさりながら、初めての試みで素人集団ゆえ誰にリーダーとしてやらしてもらおうか悩みましたが、この方面に素養のある柿田寛氏(学 18)をおいて他にないという結論になり、同氏の努力により試行錯誤を重ねつつも、「ZOOM オンライン」を立ち上げることが出来ました。(2020 年 10 月)

爾来、当初は全員在宅のオンラインでしたが、人員制限がやや緩和されるに従い四谷の会議室で定例役員会も開かれるようになり、役員他希望者だけの対面式の会場からオンラインで全国どこへでも繋ぐハイブリッド方式で開催出来るようになりました。

お陰さまで会員同士の横糸の繋がりが全国津々浦々に広がる機会が増えました。

ただ、惜しむらくは、現状では新型コロナ禍の中、講師を囲んで参加された同窓の仲間とささやかながらも和気藹々とした懇親会を持ってないことであります。

従来は経費節減のため、無料の ZOOM(時間制限あり)を使っておりましたが、瓊林会東京支部で ZOOM 社と正式契約(有償アカウント)して頂きましたので、昨年 7 月からはそのアカウ

## 瓊林友の会「談話サロン」活動状況②

研修企画グループ長 伊津野 平 (学 09)

ントを拝借させて頂き、時間制限なしにオンライン開催が出来るようになりました。

ここに、紙面をお借りして、貴東京支部のご厚意に深く感謝申し上げます次第であります。

因みに、最近のトピックスと致しましては、下記のとおりです。

- ・「TNS 短信」(Tomonokai Net Service) として、川口会長が随時、登録会員向けにメッセージを配信するようになりました。
- ・柿田役員の飽くなき追求の成果が実り、昨年 11 月にフランス・パリに長期逗留中の道野保孝会員 (学 17) ともオンラインで繋がることを確認出来たことです。今のところ時差の関係で実現には至っておりませんが、近い日にグローバルな形での開催のご案内を出来る日が来ることを楽しみにしております。
- ・新春「談話サロン」には香港滞在中の北村隆則会員 (学 17) がオンラインでご参加頂くことが出来たことは、今後の私共のグローバル化に資するものと大変喜んでおります。



### ■開催要領

瓊林友の会の会員 (入会が条件) の中から一人が講師となって、自らの経験や知識を元にテーマを決めて頂き、会員に披露して頂く内容となっております。

テーマは、政治色・宗教色や会社の宣伝色の濃い内容以外は全く自由です。

例えば、経済、文学、芸能、スポーツ、医学、健康、暮らし等など内容・形式・進め方には拘りません。(後述、「直近半年間のテーマ」ご参照。)

開催日は、原則として、毎月第 2 木曜日定例役員会の後の 11 時～12 時頃を予定しています。

当日都合つかず参加出来なかった会員及び希望者へ柿田役員から後日速やかに YouTube でも配信しています。

加えて、会報誌「瓊林友の会」(年 2 回発行) にも「談話サロン」の概要を掲載すると共に、テーマによっては、講師に投稿して頂き、全会員にも広くお知らせしています。

### ■開催実績

過去の開催実績と致しましては、平成 21 年 (2009) から令和 5 年 (2023) 1 月までに通算 152 回、うちオンライン開催通算 25 回と約 13 年の間殆ど毎月続けて開催して参りました。これも偏に会員の皆様のご理解とご協力の賜物であり、これこそ学縁の絆の強さであると確信しております。

ほんの一例ですが、直近半年間のテーマを開催順に下記列举して、ご参考に供したいと存じます。

- ・江戸は不思議がいっぱい～今の日本を考える。
- ・ウクライナ危機の教訓～これからの日本外交。
- ・ペトロ・カスイ岐部の生涯～世界を歩いた神父・日本のマルコ・ポーロ。

## 瓊林友の会「談話サロン」活動状況③

研修企画グループ長 伊津野 平 (学 09)

- ・長崎市のこれまでとこれから。
- ・強化される日米印豪（クアッド）間の経済連携。
- ・神様と仏様のお話。

テーマは、上記のように講師の方に全く自由に選定して頂いて、ご相談しながら講師の方のお考えに沿って運営しております。

### 最後にお願ひ！

何はともあれ、皆様のご理解とご協力が無ければ成り立たない「談話サロン」であります。瓊林友の会と致しましては、随時、講師および参加者を自薦・他薦で募集しております。

先ず、「瓊林友の会」にご入会頂き、講師になって頂きたくお願い申し上げます。

また、参加ご希望の方は、パソコンかスマホかタブレットをお持ちの方で、先ずメールアドレスをご連絡願うと共に、ZOOM アプリを入手して頂くことになります。

(※ご希望であれば、指導役の柿田役員がいつでもお手伝い致します。)

連絡窓口 : Zoom ホスト役・指導役 柿田 寛 (学 18)

電話 080-6798-6096

メール hikakita@za.pial.jp

研修企画グループ長 伊津野 平 (学 09)

電話 090-1204-1756

メール izuno-daizawa145@kfx.biglobe.ne.jp



## 我が愛する“青春の隠れ家”～フォーク酒場神田「昭和」～①

学29 国広昭彦

### ●その店は

私は、たまに一人でも行く酒場があります。そこは、JR 神田駅北口から歩いてすぐのところにあります。フォークソング専門のライブハウスのような店です。店の名前はフォーク酒場神田「昭和」と言います。吉田拓郎、井上陽水、かぐや姫、チューリップ等あの頃聞いたフォークソングをしみじみ聞きながら一杯、生バンドをバックにステージで歌って一杯、曲に合わせ皆で歌って一杯の酒場です。私は、楽器は一切弾きませんが、お店のスタッフとお客さんとで即興のバンドを組んでくれ、小さなステージで歌います。歌も上手くはありませんが、カラオケで歌うのと全く違った“気持ち良さ”があります。自分でギターを弾ける方は、お店に備え付けの高級ギター（Martin D-28等）で弾き語りもできます。もちろん聞くだけでもOKです。客層は50代～60代の方が多く、青春時代を求めフォーク好きが夜な夜な集まる酒場です。同世代のお客さんが多く、ある意味落ち着きます。見ず知らずの方でも仲良くなり、古い友達と飲んでいるような感じになります。カウンター席とテーブル席が少々あり、比較的こじんまりしたアットホームなお店です。

### ●フォーク酒場神田「昭和」の誕生

「昭和」のマスターは原田茂さんで、1952年、山形のご出身です。吉田拓郎をこよなく愛し、閉店前のラストソングは、マスターご自身の演奏で吉田拓郎の「落陽」が必ず唄われます。

“しぼったばかりの夕陽の赤が 水平線から もれている・・・みやげにもらった  
サイコロふたつ 手の中でふれば また振り出しに 戻る旅に 陽が沈んでいく ”

2004年3月、原田さんは51才の時、脱サラして奥様とこの店を出しました。「疲れて電車で居眠りしている働き盛りの親父を元気にしたい。仕事が終わって気軽にフォークギターをならせる。ちっちゃいステージの上でかっこいい親父になれる。」そんな思いを込め、自分が本当に行きたい店を作りたいということで「フォーク酒場 昭和」を始められたそうです。フォーク酒場のパイオニア的存在で多くのフォークファン中心に愛されていて、知る人ぞ知るフォーク好きでは有名店です。2006年には、NHKのクローズアップ現代で放送されたりもしました。2014年には、NHKの人気番組SONGSで、森山直太郎（森山良子の御子息）の歌がこの店で収録されています。また、財津和夫（チューリップ）が来店し、ご自身のギター演奏で歌ったりもしています。その他多くのプロも来店し、時と場合によれば、プロも素人も同じステージに立つことが出来る可能性もあります。

### ●フォークソングと深夜放送の少年時代

私は、フォークソングが大好きです。その多くはラジオを通して知りました。小学校の頃は、夏休みの「朝のラジオ体操」でラジオを使うくらいでしたが、中学に入るとラジオで「基礎英語」とか「中学生の勉強室」だとかを学校の先生の薦めで勉強のツールとしてラジオを聞くようになりました。しかし、テスト勉強と称して夜中にラジオを点け“深夜放送”を聞くようになり、段々、勉強しているのか深夜放送を聞いているのか訳の分からない“ながら族”となりました。中学生になった1971年当時、深夜放送は「オールナイトニッポン」（ニッポン放送）、「セイ！ヤング」（文化放送）、「パッケインミュージック」（TBS）が3大看板番組でした。この頃深夜放送は、受験生を中心とした「深夜の若者の解放区」として若者世代で大ブームとなり、一種

## 我が愛する“青春の隠れ家”～フォーク酒場神田「昭和」～②

学 29 国広昭彦

の社会現象となるほどでした。1964年の東京オリンピックを契機にテレビが爆発的に普及し、メディアはテレビの時代となり、逆にラジオの衰退が叫ばれる頃でした。

深夜午前1時、机の上の小さなトランジスタラジオから「ビターズ・スイート・サンバ」のテーマ曲が流れ「オールナイトニッポン」が始まります。番組の冒頭の「君が踊り僕が歌うとき、新しい時代の夜が生まれる。太陽の代わりに音楽を、青空の代わりに夢を。フレッシュな夜をリードするオールナイトニッポン」という口上とともに「ビバヤング（若者バンザイ）オールナイトニッポン」が小気味よくラジオから流れてきます。大人たちは寝静まり、“自分たち若者だけの夜の世界”が始まるような気がしました。明け方の午前5時までの生放送でした。リスナーの対象は、中学生、高校生、浪人生等、真夜中に一人机に向かう“孤独な受験生”でした。全国の若者から番組に寄せられるハガキを紹介し、音楽が流されます。ビートルズやサイモン & ガーファンクルなど海外のポピュラーミュージックに日本のフォークソング、若者世代の最先端を走る音楽が流されました。大分県の片田舎の中学生であった私にとって、遙か彼方花の都大東京から、星空を飛び越えて飛んでくる電波は刺激的でした。その電波に乗って、多感な10代の心を揺さぶった音楽がフォークソングでした。当時のフォークソング歌手はテレビには一切出ませんでした。どんな人がこんな歌を歌っているのか……。頭の中で、歌詞やメロディ、歌の情景といろいろ空想します。テレビにない楽しさや同時期の若者としての共感がありました。

イギリスの誇る伝説的ロック・バンド「クイーン」の代表曲の一つに「RADIO GA GA」（レディオ ガ・ガ）という曲があります。

I'd sit alone and watch your light（よく独りで座って、ラジオの光を見つめていた）

My only friend through teenage nights（10代の頃、深夜の友達はお前だけ）

And everything I had to know（知らなきゃいけない事は全部）

I heard it on my radio（自分のラジオから教わった）

.....

Radio goo goo（レディオ ググ）Radio ga ga（レディオ ガガ）

正にこの歌の通りの少年時代でした。

因みにクイーンのこの曲名「レディオ ガ・ガ」が、アメリカの大スター「レディー・ガガ」（Lady Ga Ga）の芸名の由来となった歌です。

### ●「昭和」との出会いと素敵な仲間達

2006年9月23日、静岡県掛川市のヤマハリゾートつま恋多目的広場で『吉田拓郎 & かぐや姫 Concert in つま恋 2006』と題し、35,000人の観客を集めた野外コンサートが開催されました。「吉田拓郎」と「かぐや姫（南こうせつ、伊勢正三、山田パンダ）」がジョイントで1975年以来31年ぶりに開いたこのコンサートは大変な話題となり、NHKニュースでも報道されるほどでした。翌日の昼休み、会社で同僚とこのコンサートとフォークの話で盛り上がりました。その同僚から、神田にフォークソング専門の居酒屋があると紹介されて、後日行ったのが“フォーク酒場神田「昭和」”でした。初めて行ったその日からこの「昭和」のファンになりました。店の小さなステージに上がり、懐かしい思い出のフォークソングを生演奏で歌います。人前で

## 我が愛する“青春の隠れ家”～フォーク酒場神田「昭和」～②

学29 国広昭彦

歌う恥ずかしさもありましたが、歌い終わった後は得も言われぬ“快感”でした。上手い人も、私みたいな下手でも順番に歌い、温かい拍手が送られます。カウンターでは隣の席の見知らぬ人ともフォーク談議で仲良くなります。フォーク酒場「昭和」だけの友達も結構います。お互いの職業も、会社の役職も一切知らない、フォークソングを媒介にしたこの店だけの友達です。お互いニックネームや「〇〇ちゃん」で呼び合い、仕事の話もしない、社会の煩わしい上下関係も何もないフラットなこの店だけの友達です。ある意味私の誇れる空間です。そんな店だから、会社帰りに一人で寄ったりします。カウンターに腰掛け、ウィスキーを片手に、時にはシンミリ聞き入り、一緒に口ずさみ、順番が来たらステージで歌い元気を貰います。

フォーク酒場神田「昭和」は、いつも暖かく迎えてくれるマスターとママがいて、素敵な仲間がいて、青春時代に戻れる、私にとって「青春の隠れ家」です。最近では、経済学部同期の皆さんをお誘いし、一緒に青春時代に帰って歌っています。フォークソングの好きな方、特にギターの弾ける方は是非訪ねてみて下さい。



## 秘境に約 500 年続く長崎の伝統祭りのご紹介①

学 51・院 16 卒 中村 奈美

### 「知らずのうちに外国文化が根付く長崎」

長崎の伝統的な祭りと言え、代表的なのが、長大経済学部の近くにある諏訪神社の長崎くんち。(通称：おくんち) この祭りは、寛永 11 年 (1634 年) から続いています。諏訪神社のおくんちを筆頭に松森神社や、西山神社、昔からの祭りが数多くあります。海に囲まれた長崎は、東シナ海に広がる海原が世界と結ばれており、天草灘を経て京都や東京へ繋がるため、祭りには、日本文化の中でも異国も感じさせるようなことが度々あります。

ご存知のとおり、長崎には、長崎人は普通だと思っている事でも、観光や外から訪れた人々が不思議に思われるくらい、異国のものをすんなりと溶け込ませ、知らずしらずのうちに日常生活に根付いている独特の文化があります。例えば、寺院の門。これはアーチ形の石門が多くあります。東京では寺院の門は、名前が彫られた一本の石が建っていたりします。アーチ型の門を造る技術はかなりの計算力と技術力が必要です。これは、中国から (或いは中国を経て) 渡来している技術です。

代表的なのが、長崎の眼鏡橋ですが、これら中国人が作った橋の技術をそのまま、長崎市内の寺院の門にも応用して作っているのが多くあります。



飯香浦地区  
日吉 成尾地蔵尊  
アーチ型の寺院の門は長崎特有

また、寺院の中には、必ずと言っていいほど、「蘇鉄」の木があります。南洋な雰囲気醸し出す木がなぜ寺にあるのかと皆、不思議に思っているようですが、私たちは全く気になりません。むしろ学校の校庭にもどこにも蘇鉄はありました。他にも、各家の墓石の文字は、唐文化にならない金文字で、お盆には墓場で皆と花火をするのが楽しみでした。それら光景が、日本では珍しいということは、東京に来て知りましたが、殆どが、唐 (中国) の風習の影響が大きいようです。

そこで、今回、長崎市内の人でもあまり知られていない、もしかしたら、何らかの海外の風習を真似てみたのが進化し、今日に残ってあるのではなかろうか。と、推測される謎のお祭りをご紹介したいと思います。

## 秘境に約500年続く長崎の伝統祭りのご紹介②

学51・院16卒 中村 奈美

### 「飯香浦地蔵まつり 飾りそうめん」

長崎市を橘湾沿いに諫早方面へ北上していく途中に「飯香浦（いかのうら）」と、いう地区があります。市街地から一本の山道をくねくねと約45分位車を走らせた所で、山と海が見渡せる農業が盛んな町です。この地に約500年も続いている「飯香浦地蔵まつり 飾りそうめん」という祭りがあります。実はこの祭り、こんなに長く続いてありながらも、ほとんど長崎市内の方にも知られていません。また起源がいつからで、なぜこのスタイルなのか、記述が少ないことから、良くわかっていません。

この地区に2つの地蔵堂があります。そこにお地蔵さまが、祀られています。そのうちのご1尊のお地蔵様は、1533年からご鎮座されていることが記されてわかっています。約500年前から座っていてくださっています。しかしながら、どのような由来があり、なぜこの地なのか。またその当時に新たにご鎮座されたのか。それとも、もっと古くからあり、新たにできたのか。いつからおられるのかは、全くわかっていません。謎のまま、各地蔵堂の2尊のお地蔵さまは、姉妹ともいわれています。

その他には、お祭りで使われる鉦に1718年寄贈の印があり、少なくとも約300年前には、この祭りは行われていたという事は言えます。



この祭りの不思議な魅力は、何から全て謎なことばかりですが、準備も手が込んでおり謎です。カラフルで、極彩色使いの飾り物は、日本とアジア文化が色濃く混じっているようにも感じます。

不思議で謎が多いこの祭りですが、例年7月23日～24日の二日間に渡って欠かさず行われています。

初日早朝には、地蔵堂の前に地域の方々が集まり、男衆が山で採ってきた竹を刃でサクサクと削いで、約1mの竹串を大量に作っていきます。一方で、丸太を持ち寄り、シバを敷きつめて、落雁などを縛りつける「もりもん台」と、いう台もつくっていきます。

## 秘境に約 500 年続く長崎の伝統祭りのご紹介③

学 51・院 16 卒 中村 奈美



(もりもん台の飾りつけ 全て手作りで、昔ながらの糸や紙の紐、竹を使います。)

女性衆は、別に小麦粉で小さな団子を作ります。生地を手で、こねて、こねて、団子状にコロコロと丸めていき、それを先ほどの長い竹串に連ねて刺していきます。相当な数の竹串ができ並べられます。また別のグループでは、大きな桃の形の饅頭や、フルーツの輪切りの形をした落雁を、もりもん台に貼りつけながら、細い紙の紐で結んでいきます。現代においても紙の紐です。長い“こより”のような細くて強い紐でしっかりと縛っていきます。暫くすると、こねた団子を刺した竹串は、何本も台に刺して立て、迫力のある団子が連なったタワーができます。これは、お地蔵様の両サイドに。飾られたもりもん台は、お地蔵様の前に並べられ、しっかりと飾っていきます。



(こねた団子を竹串に刺していきます)

そしてこの祭りでの大事な、「飾り素麺」づくりです。特注 2.5 m の「生素麺」が運ばれて用意されます。生素麺は、乾燥すると折れてしまうため、全ての工程を 3 時間以内には終わらないといけません。しかも祭りがあるのは夏。解放部屋か野外で作業は行われるなか、扇風機もつけず急ぎ作業を行います。

生素麺で、「幔幕 (まんまく)」を作ります。幔幕とは、お地蔵様のお堂の前にかける飾り用の幕です。地域の方々が集まり真剣な眼差しで、生素麺を囲みます。互いに声をかけあい、息を揃え、素麺を丁寧に慎重に扱いながら手を動かしていきます。なんとも言えないピンと張りつめた緊張感が漂っていました。素麺の生地は切れやすくデリケート。幔幕をつくる工程の編み方を見ると、かなり複雑です。とても一度や二度では覚えきれないような難しい編み方を

## 秘境に約500年続く長崎の伝統祭りのご紹介④

学51・院16卒 中村 奈美

幾重に行きます。暫く見ていると、しっとりとした質感のある組み紐の綺麗な白いカーテンができてきました。美しく、とても素麺でできているとは絶対にわかりません。



幔幕、右前にあるのは素麺を編んで作っています。お地藏さまの足元にはお餅、両端にあるのは竹串に刺した団子を巻き付けた物。全部食物です。



そして、他のグループも同じく生素麺で、「鎧兜」を作ります。幔幕とは異なる編み方で、紐を紡ぎながら、赤と銀の色紙の紐を複雑交互に組み合わせながら、二つの胴体を作ります。鎧兜は、男女の対となっていて、女性の鎧兜は、ふっくらと胸の膨らみがあります。

組紐の様子は多種で、編み方は単一ではありません。ベテランらしき方が編みはじめて、それを、他の人たちが見ながら同様に手を動かし、年長の方々が教えサポートしたり、その様子を

子供たちがジッと見て学び、地域の人々が周りを取り囲み、作業を見守りながら完成します。驚くことに、この編み方については、マニュアルなど一切なく、作りもしません。全て口伝で継承されてきています。編み方を覚えるのには、4～5年位、湿度や気温に合わせて加減を変えることや、時間が経っても素麺が緩むことがないように、上手に作れるようになるには、10～15年かかるようです。そうやってこの地域の人々は大事にしながら、永い間、後世に繋いできています。

作業工程にも驚かされませんが、何より、この地は農作地であっても、素麺は作っていません。もともと昔から無かったようです。それでは何故、素麺で作るのか？この豪華なお供え物たちは、なぜ食品でこれほど豪華に作られているのか？それが全くわからないのです。しかも、お地藏さまは、お姿がとても個性が強く、印象に残ります。ずっと見ていると可愛く見え、なんとなく愛着がわいてきます。気になるお顔しています。

ここになぜご鎮座されたのか。約300年から500年前に一体何があり、何に由来しているのか、全くわかりません。もしかすると、500年前からの記録が残されていないだけで、それ

## 秘境に約 500 年続く長崎の伝統祭りのご紹介⑤

学 51・院 16 卒 中村 奈美

以上に古くからあったのかもしれませんが。謎が謎を呼びわからない…。それでも永い間、人々に大事にされ、祭りごと守り続けてきていることに面白さを感じます。



落雁、饅頭、素麺で



鏡兜

正午過ぎにやっと飾りつけが終了し、装飾された地蔵堂は、目を見張るように鮮やか。とても楽しませてくれます。横幅が 3 m 近くある白い幔幕。しっとりとした質感で上品な組み紐が垂れさがっています。その奥には、お地蔵さま。お地蔵さまと幔幕の間には、鏡餅と、一面を団子で覆われた、もりもん台。そして、お地蔵さまの前にある献上台の両端には、鏡兜が対で並び、その間には、お供え物として桃の形の饅頭や、鮮やかなピンクや黄色、オレンジ色で、果物や花を模した落雁。それに時折、緑色のシバで彩りを深めたもりもん台が建ち並び、多くの献上されたお酒やお花もお堂一杯に並びます。外の参道からお堂の中まで、この祭りのシンボルの提灯が飾られます。その提灯も独特で、青と赤と白の模様がどこか日本ではない雰囲気が出てなりません。謎です。

地域の人々も参拝に訪れて、賑やかになります。カラフルになったお堂を見てまわり、お地蔵さまに笑顔で手を合わせていきます。あちらこちらが久しぶりの再会の様子で、挨拶しては笑い声が聞こえていました。

夕方近くになると、男性達が横位一列に並び、「鉦 (かね)」を床に置いて、木具で叩き、カンカンという音を鳴らしながら、独特の念仏を唱える「鉦張り」が行われます。念仏(お経?)が、「南無・・・」と、はじめだったので、般若心経かと思いきや、違い、リズムも独特で、まず聞いたことがありません。聞こえてくるのは、理解不能なカタカナ文字だけが頭のなかを過ぎていきました。一同で念仏を唱え、鉦の音が揃い、お堂一杯に響きわたります。これら全ての祭事が、口伝でこの地域がずっと継承してきたものです。いまだに誰も念仏の意味も、鉦はどこから来たのか、全くわかっていません。でも、祭りをみていると、そんなの知っても知らなくても関係なく、なんだか愛おしさも感じてときました。その証拠に皆さんも終わったらスッキリした笑顔になっていました。

私も改めて参拝させてもらおうと、お札と半紙で包んだ袋をもらいました。お札は約 200 年前の貴重な版印が一枚一枚におされたものです。半紙袋の中身はお団子です。朝から女性の皆さんがもくもくと丸めて、竹串に刺していたあの団子です。参拝者には、お裾分けでいただける

## 秘境に約500年続く長崎の伝統祭りのご紹介⑥

学51・院16卒 中村 奈美

のです。これらは、一年を健康で過ごせるラッキーアイテムです。いただいたお札はお財布へ。お団子は持ち帰り、晩御飯のお味噌汁に入れてありがたくいただきました。何だかとてもほっこりと嬉しくなりました。

このまつりは、日本風ではあっても、どこかで、アジア文化が、混ざっているようにしか思えてなりません。その謎が、また。色んな想像や空想をかきたてては、結局、わからないまま。だから、とても面白いのです。



鉦・念仏

### 【飯香浦町を通して】

もともと、飯香浦町（いかのうら）の名前は、神功皇后伝説に由来します。隣の町に茂木（もぎ）町があります。長崎茂木びわが有名な地域です。

茂木の地名は、諸説ありますが、三韓征伐（朝鮮出兵）の折に神功皇后がこの地で、袴に着替えたことから、袴＝裳を着た（裳着）と地名がつき、今の簡略文字になったと言われています。そして、その時に茂木からずっと海岸では、兵士達の食事の準備で炊いていたお米の香りが、この村（浦）には充満していたという事から、飯香浦（いかのうら）となったと言われています。私は、この祭りの彩を見てはいつも感じるのが、なんとなく、提灯の色使いや、念仏に鉦をつかうところから、古来朝鮮からの影響もあるのではないだろうかとも思っています。朝鮮三韓征伐（朝鮮出兵）の時代と、まではいかななくても、もしかすると、その後にも、朝鮮との

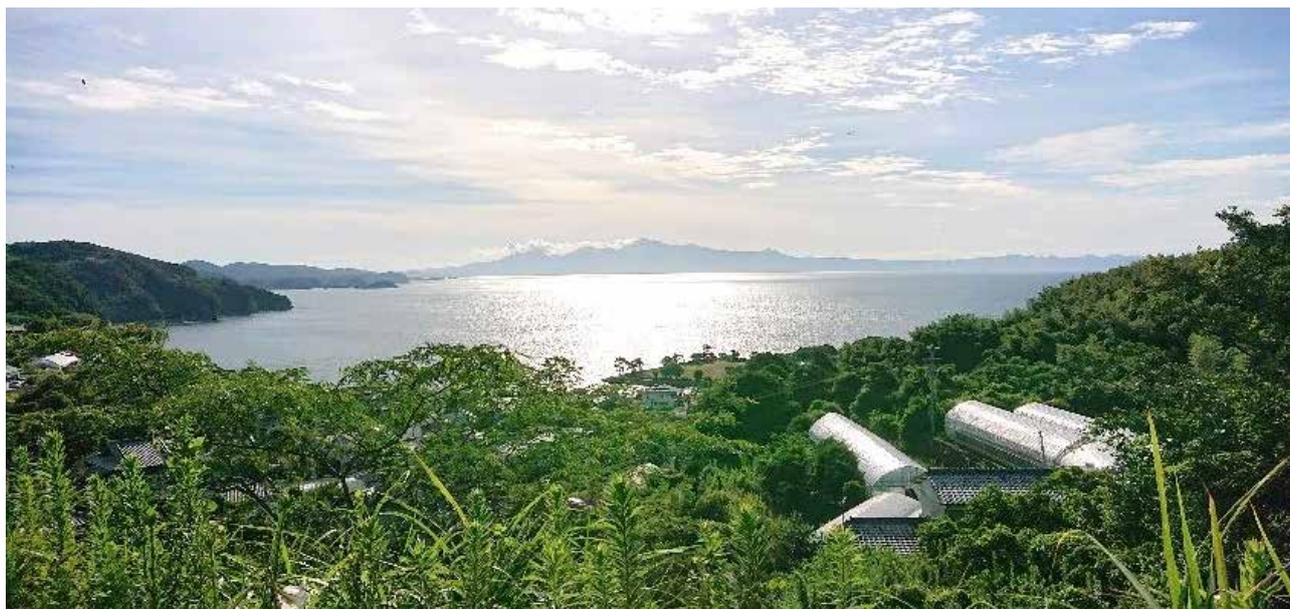
## 秘境に約500年続く長崎の伝統祭りのご紹介⑦

学51・院16卒 中村 奈美

交流が深まり、そのことから今に残っているのでは。とか、はたまた、桃や、果物を模した饅頭や落雁を見ると、中国かな？とも思ってみたり、もしくはお地蔵さまをよく見ると、なんとなく・・・インド系？も混じってないか？と感じられる。もしかすると全部かも？と思えるくらいです。そもそも長崎には、昔から、いろんな外交に触れ、文化が入れ混じっても不思議ではないな。と、謎のままなことが腑に落ち、納得しています。（させています）

飯香浦町からの帰り道で車を走らせていると、田畑や農地が広がってきますが、よく整理されており、民家も道も手入れされていて小綺麗です。祭りのために人々が集まり、こころのよりどころであるお地蔵さまを慈しみ、祈り、笑顔で話している地域の人々の姿を見ていると、この祭りが、500年近く続いてきたことが、何となくわかる気がしました。うまく言えませんが本当に豊かな生活ってこういう事なのかも。とも感じました。

世界の玄関口と言われる長崎。西の端だったからこそ、謎の祭りや文化が、幾つあってもおかしくないでしょう。長崎には、まだまだ知られていない奥深い歴史と、魅力的な場所が沢山あるので、よろしかったら実は古いけども新しい長崎発見の旅に訪れてみてください。



※写真撮影 中村奈美  
(黒沢永紀氏 一部提供)

## コロナ禍を越えて集う仲間たち①

～学29回(互緑会)卒業40周年記念同窓会～

学29 増田 義弘

東京支部の皆様、こんにちは。学29回大阪支部の増田義弘です。我々学29回は、2022年10月15日、16日に一年遅れの卒業40周年記念同窓会を開催しました。私は幹事を務めましたが、一緒に参加した東京支部事務局長の牧野陽一郎君から、会報誌「東京瓊林」への投稿の依頼を受け、僣越ながらも寄稿させていただきました。ご一読いただければ幸いです。

### 1. 学29回同窓会の経緯

我々学29回生は、1977年(昭和52年)に入学した同期の桜である。当時、入試倍率は7倍を超え、狭き門を潜り抜けて、万感の思いで学生生活をスタートさせた。濃密な4年間を過ごし、1981年(昭和56年)に卒業就職し爾来、41年の歳月を経た。昨年、卒業40周年を祝して記念同窓会を開催する予定であったが、思いもよらないコロナ感染拡大に見舞われて会は延期となってしまった。漸くコロナ禍も落ち着きを見せ、10月15日(土)、大阪に23人が集い一年遅れの卒業40周年記念同窓会を開催した。

学29回同窓会は、2016年に卒業35周年を記念し長崎で第1回を開催した。その時、会の名称を昭和56年卒業にちなんで「互緑会(ごろくかい)」とした。お互いにいつまでも新緑のごとく若々しく過ごそう。との意味を込めたものである。そして、第2回は2019年に福岡で開催しその場で、第3回は卒業40周年の節目に2021年に関西で開催することが決まった。当初、2021年10月に開催方向で準備を進めていたが、コロナ禍が収まることはなくやむなく2022年3月に延期し、会場の確保まで終えていた。その間、同窓会での再会を心待ちにしていた神田正志君が2021年5月にコロナ感染により急逝してしまった。まさに痛恨の極みであった。その後もコロナ感染は収まるどころか変異種オミクロン株の感染拡大と続き、またしても延期、改めて2022年10月開催を企画し2年越しの準備を経て実施にこぎつけたのだった。

### 2. コロナ禍での同窓会

今回の参加者23名は、関西在住が7名、九州からは7名、関東からは9名であった。会場は大阪府吹田市のパナソニックリゾート大阪とし、うち19名が宿泊した。コロナ禍のもと、感染しその後遺症で体調がすぐれず不参加の者、自らが基礎疾患を抱えて参加を自重する者、ご高齢のご両親含め同居家族への感染を危惧し大阪行きを見合わせる者、また勤務先からの行動自粛や制限によりやむなく参加を断念する者と、まさにコロナに翻弄された。とりわけ、直前まで参加予定であった瓊林会会長の喜多村円君がやむを得ぬ事情で参加が叶わず、また、香川県在住の森圭三君は、9月末に感染し、急遽欠席となったことは誠に残念であった。新型コロナウイルスの猛威を凶らずも知らされた。そのような状況の中で、全国から23名も参集いただけたことは幹事として大変嬉しく思った。長崎の馬場隆幸君は、ご婦人の美子様同伴で参加していただいた。また女子は同期が19名いたが、そのうち5名が駆けつけてくれた。難産の末の同窓会はこうして開催の運びとなった。

### 3. 盛会の宴

さて、待ちに待った宴会である。司会の武石通利君の開会宣言により会は始まり、まずは不肖私から幹事挨拶を行った後、既に鬼籍に入った10名の同期の氏名を司会から一人ずつ紹介し、生前を偲んで全員で黙祷を捧げた。そして、合屋隆司君の意気軒昂な乾杯の音頭で祝宴へ

## コロナ禍を越えて集う仲間たち②

～学29回（互緑会）卒業40周年記念同窓会～

学29 増田 義弘

と移った。3年ぶりの再会や、卒業以来初めて顔を合わせる者もいて、お互い喜び合い旧交を温め合った。高齢者と言われる年代にさしかかり年相応の風貌ながら、話し出すと学生時代そのままでもあり40数年前にタイムスリップし笑いが絶えなかった。しばらくの歓談の後、一人ずつ壇上に上がり近況報告となった。未だ現役として仕事に励む者、趣味や社会貢献に勤しむ者、健康上の不安を抱える者、皆それぞれであったが、独演の連続で大いに盛り上がった。

次に、次回第4回の互緑会の開催について話し合い、「地元の長崎にて、2年後に盛大にやろう。」となった。幹事は馬場隆幸君が自ら名乗りを挙げてくれ、満場一致で決定した。その後、久々に肩を組んでの「高商歌」の大合唱、谷口俊也君の閉会の挨拶と続いた。最後に、全員満面の笑みでの記念写真を撮影し一次会はお開きとなった。二次会は会場内の別部屋の座敷の間で行われ、国広昭彦君の乾杯の音頭で狂乱の宴が始まった。中には酔いつぶれて、畳の上で大の字になって寝転ぶつわもの？も出る始末。かく言う私も二次会の記憶は定かではない。学生時代を彷彿させる宴は真夜中まで続いた。そして、各自、宿泊部屋へ戻って深い眠りにつき、初日は大盛会のうちに終了した。

### 4. 京都観光

翌10月16日(日)は京都観光を楽しんだ。参加者は16名。貸切バスを手配し、嵐山、二条城、清水寺を巡った。秋晴れの絶好の天候のもと、賑わいが戻りつつある嵐山では渡月橋、竹林を散策した。二条城では大政奉還の場に触れ、幕末から明治に移り変わる歴史を垣間見た。そして、清水寺では平成の大修理を終えて荘厳さを増した清水の舞台からの素晴らしい絶景に目を奪われた。夕刻、京都駅で解散し、名残を惜しみつつ各々帰路や次の旅へと向かった。まさに「還暦過ぎの修学旅行」を大いに楽しんだ一日となった。

### 5. 終わりに

二日間にわたる同窓会は、全員笑顔に満ち溢れた極めて楽しい集まりであった。次回は、2024年に長崎での開催である。さすがに、この3年近く猛威を振るってきた新型コロナもその時点では収束しているであろう。学29回の皆さん、平静を取り戻した2年後、元気に長崎で再会しましょう。

#### <互緑会参加者>

秋吉広太、阿部信行、石橋文、川崎圭一、国広昭彦、熊井智幸、栗田伸男、合屋隆司、佐藤香奈江、沢邑幸一、沢邑潤子、武石通利、谷口俊也、長岡健、馬場隆幸ご夫妻、藤田克子、牧野陽一郎、増田義弘、村上真由美、森厚憲、吉開孝人、渡邊俊介（23名）



## 長崎大学経済学部ラグビー部の思い出①

学3 1 北浦 弘徳

昭和58年卒業、三井生命（現大樹生命）に入社、会社でもラグビーを続け、関東社会人リーグ、三井リーグ、オール三井VS三菱の新人戦等に参戦しました。当時は松尾、平尾らが活躍するラグビー黄金時代だったと思います。ワールドカップでは世界と伍する実力となりラグビー界が盛り上がり嬉しく思います。現在62歳でシニア勤務です。3年前から東京都青梅市に住み、休日は家族と奥多摩、山梨・長野方面のドライブを楽しんでいます。今年は青梅マラソンにチャレンジしていますが、目標はゆっくりマイペースで完走です。昭和レトロな街道を町のランナーと挨拶を交わしながら走っています。筑後川マラソン、富士山マラソン、湘南マラソン等々、各地のマラソンに参加してきましたが、転勤が多く妻や子に負担を掛けてきました。私を支えてくれた家族に感謝しています。またその折々、経済界で活躍される経済学部OBとの出会いがあり、人脈の有り難さを感じています。特に「西稜ラグーOB会」は結束力があり、この終生の繋がりは何事にも代えがたいものです。

大学時代のラグビー部の懐かしい思い出を季節ごとに回想します。

春、入部して桜咲く西山（西陵）グラウンドに転がる石ころを皆で拾っていました。同期との出会い、初心者でも大丈夫との先輩の甘い誘いを真に受けて私は大学からラグビーを始めました。当時のキャプテンから「ボックスをやりたかったら貢物を持って来い。」と明るく言われたジョークは最高に受けました。

経験がないのでただ愚直に走るしかありませんでしたが、野生的な性格が幸運して、タックルすることに抵抗はなく、格闘技だと勘違いして相手を倒すのは快感でした。しかしこれほど自分に合ったスポーツはないと思い込み、ポジションはプロップからスタートし、フッカー、フランカー、NO8と経験を積みました。

夏、恒例の高地合宿、湯布院はまだ静な温泉地だったと思います。一日に何試合もの試合に出て意識朦朧となっていました。頑丈な体でなかなか故障しませんでした。お陰で三年目の合宿は、めでたくもない皆勤賞となりました。未来を妄想しながら社会人になったらいつかの地に遊びで来てみたいと思っていましたが、福岡勤務の際にロータリークラブの旅行でリゾート列車の特急「ゆふいんの森」号に乗り実現できました。夫婦で温泉や食事を楽しみながら散策し、学生当時の苦しい練習を思い出し感慨深いものがありました。観光客で想像以上の人混みには驚きました。

秋、大学の代表決定前は木造建築の芙蓉館で合宿しました。大部屋で部員全員が寝泊まりし、チームが一つになる為の貴重な経験となりました。4年生にとっては最後の試合です。試合の前夜に消灯し暗い部屋で一人ひとりが厳しい練習を振り返りながらしみじみと決意表明したことを懐かしく思います。

また学部祭の樽酒の美味しさは格別でした。許可を得て裏山で取った孟宗竹でこしらえた樽神輿（たるみこし）を担ぎ町中を練り歩き、時に猛烈にダッシュして神輿と速さを競いました。公道でこんな無茶が出来るなんて学生の特権だと気分爽快でした。先輩方は猛者の方が多く武勇伝が生まれ語り継がれて行きました。

冬、正月恒例のOB戦、下宿生の皆さん、社会人となったOBが帰ってきます。そして試合後

## 長崎大学経済学部ラグビー部の思い出②

学3 1 北浦 弘徳

の宴会場は思案橋の電車通り沿いにあり、ちゃんぽんや餃子のにおいが香ってきます。OBと語れるのはこの機会しかありません。後輩思いのOBの白いワイシャツ姿がまぶしく感じたものです。

九州商経大学ラグビー大会は6月の梅雨時でした。4年生となり部員は30名を超え紅白戦が出来るような大所帯となっていました。我がチームは決勝まで進み優勝をかけて戦いました。

対戦相手は大分舞鶴高出身者を擁する優勝候補No1の大分大学でした。僅差でリードしていましたが、後半に押されて相手チームの猛攻が続きました。ディフェンスを突破されれば逆転負けのピンチ、激しいタックルで僅差を守り抜き優勝を果たしました。部員総員で勝ち取ったこの優勝は今でも誇りです。祝勝会では各々が立ち上がりスピーチしてお互いを称え合いました。宴会では酒の勢いを借りて全員一人一曲を独唱していたことが古き良き時代と思い出されます。

これまでも楢円のボールを追うように駆け抜けてきました。ノーサイドの笛はまだ聞こえません。これからもゆっくりでもマラソンのように走り続けたいと思います。同期、先輩、後輩の皆様との絆は一生の財産です。最後になりますが、瓊林会のさらなる発展を祈念しております。ありがとうございました。



## 応援団の思い出①

学 30 田中 久也

月日が経つのは早いものです。私も今年で 66 歳となり、思えば 40 年以上前の 1980 年 2 月、当時の諸先輩の強い要請があったのは事実ですが、経済学部に応援団を結成してしまいました。最近では、学部単独のクラブ活動は減少してしまったようですが、当時は準硬式野球部・ラグビー部・サッカー部・バレー部・バスケット部等々、経済学部単独の部活動が盛んでした。当時、私が何を思ったのか、今では定かではありませんが、長崎大学経済学部の学校・学部・体育会の発展に寄与したいというモチベーションだけは非常に高かったように記憶しています。

結成しても、団員は私だけ。同年 4 月に入学してきた新入生に入団してもらおうべく、1 人で本学に出向き、勧誘活動に明け暮れました。結果として 2 人の新入団員が誕生しました。中尾君（学 32 回卒）と宮崎君（学 32 回卒）です。2 人とは経済学部がある片淵キャンパスで応援団の練習を行ない、練習後キャンパス近くの一香食堂でめしを食べ、銭湯に行き、銅座のモロッコ（スナック）に繰り出したものです。このルーティーンを何回やったことか。飽きもせず、練習→めし→銭湯→モロッコです。2 人には今でも本当に申し訳なく、又大変感謝しています。

その後、野球部崩れの私以外に、同級生（当時 3 年生：柔道部崩れの田中義君、バレー部崩れの白杵君、交渉上手な井上君、体力抜群の荒瀬君、清原君、秋田君）、2 年生（2 代目団長の中島君）、1 年生（3 代目団長・前瓊林会福岡支部長の井野君、前長崎消防学校副校長の小山君、おっとり刀の日野君）が新たに加わり、合計 13 名の所帯になりました。同年秋には何とか演武の体系が取れるようになりましたが、アルバイト代は団旗・太鼓購入費、学ラン新調費、その他備品購入費用に費やしてしまい、デートをしても彼女に奢ってもらうような惨状となってしまいました（…因みに、当時の彼女が私の今の家内です）。今や、懐かしい思い出となりました。

翌年 1981 年には私も 4 年生となり、4 月には 10 名の新入生が入団してくれました。所帯も 23 名となり、当時、九州・山口地区の国公立大学で応援団のある九州大学・熊本大学及び、私立大学を含めた九州応援団連盟とも交流が始まりました。さらに、形だけではありませんが、学校のグループ活動としても認めて頂けるようになりました。

当時の体育会部活動は非常に活発で、準硬式野球部は九州大会を勝ち抜いて全国大学選手権大会に出場、ラグビー部は九州大会（久留米）で決勝まで駒を進め、柔道部の実藤君（学 3 回卒）は国立大学個人戦で全国 3 位、マッスル部の村里君（学 30 回卒）はミドルヘビー級で全国 1 位等々、猛者ぞろいでした。お陰で、応援活動も忙しく、春と秋は毎週どこかの応援に行くような状況となりました。さらに応援以外のお手伝いも多く、柔道部の大会では運営のお手伝い、経済際ではガードマンと、さまざまな要望に応えるべく活動していた記憶が残っています。

一番懐かしい思い出は、当時のキャンパス内にあった木造の建物「芙蓉館」で、頻繁に行なった体育会クラブ合同懇親会（宴会）です。ある日の懇親会で、催し物の一つとして、腕相撲大会を行ない、決勝は上述の実藤君（柔道部）と村里君（マッスル部）。注目の大一番です。どちらが勝つかを皆で賭けをしましたが、結果的に村里君の圧勝でした。今でも、実藤君の悔しそうな表情が忘れられません。因みに、弓道部の同級生（…名前が出てこないの、申し訳ない）

## 応援団の思い出②

学 30 田中 久也

が準決勝まで進み、以外と強かった印象が残っています。

最後に経済祭の思い出に触れておきます。当時は、体育クラブ対抗ソフトボール大会・ステージを設定してのど自慢大会（飛び入り参加 OK）・神輿を担いで長崎の町を練り歩き…等々と続き、祭りの最後の日の夕方にキャンプファイヤーよろしく全員で肩を組んで、「暁星青く瞬きて…」を歌い散会となりました。良くも悪くも、長崎の町の方々の温かいご理解とご支援があったからこそ、このような経済祭が開催できたと、この歳になってしみじみ感じるものがあります。…当時は本当に学生に優しくかった町だと思つづく思います。

ダラダラと当時の思い出を綴ってきましたが、この写真に写っている若者は皆還暦を過ぎています。応援団諸君の健康と今後のご多幸を祈り、結びとします。  
押忍！



## 「手考足思（しゅこうそくし）※」の日々①

学40 小山 貴子

卒業して31年が経とうとしています。コロナ禍、父を見送り、母を横浜の自宅近くに引き取り、息子が成人を迎え、前後の世代を冷静に見ることができる年齢になりました。想像していなかったことが起こり、想像できなかったゆえに戸惑ってばかり。ただ、これまでいつなんどきでも、楽しみ、冷静になり、いつか同じことで困った人がいたら、この状況を語っていこうという気持ちで過ごしてきました。

せっかちな性格ゆえ、周辺の人に迷惑をかけながらの日々だったことは間違いなく、家庭内では被害者同盟の会を立ち上げられそうな雰囲気もありますが、学生時代に接してくれた方々と今でもお付き合いいただける、長崎はそんな人との出会いを作ってくれたありがたい場であったと思います。

自らの子供が大学生になってからは特にあの時代を思い出します。（自分のことは置いて）「なんでこんなに勉強しないんだ！」

「なんでこんなに飲み歩いてるんだ！」コロナ禍にも関わらず、溢れんばかりのエネルギーをそのまま外に放出させるように毎晩のように飲み歩く。息子はこれまでも何度か家から外に出ていきましたが、幸か不幸か、大学時代を自宅で過ごすことになったゆえに一挙手一投足が見えてくる。2年前、外に出るだけで「死」に近づくのではないかという意識で過ごしていた頃、その様子に不安と共に、社会がこの環境だからこそ、じっくりで部屋で本を読み、考え事をしたらいいのという思いになったものです。



さて、「自分のことは置いて」の話を始めます。私は大分の片田舎から長崎に行き、特に1年生の時には都会の雰囲気に圧倒されていました。中高校生の時には活発なほうだったと思いますが、雰囲気にのまれると、幼少期の引っ込み思案がでてきます（これは今でもそう）。2年生の時に西山に移り住み、近所の一人暮らし仲間ができ始めた頃から、楽しい大学生活が始まったように思います。机に座って勉強するよりも、身体を動かして稼ぐことが好きでもあり、朝からバイトをかけもちし、夜は先輩方からも声をかけていただき飲み、思案橋近辺から西山まで歩いて帰ったことが何度か（も？）。今考えると、長崎の地で本をじっくり読んだことがあったのだろうかと思います。ゼミでも芝コンを楽しみ、久住の冬山登山に泣きたくなり（でも行って本当に良かった!）。「卒論」もギリギリまで題が決まらず、覚えたてのワープロで入力するのと手書きと、どちらの効率がいいかということを考え、手書きを選ぶ。結局、締め切りギリギリまで必死に本を写す。ゼミの教授だった都野先生には、こんな教え子で本当に申し訳ない思いでいっぱいです。そして、父母にこんな姿を間近に見せることがなかったことがせめてもの救い。見せることがなく終わることができたであろう姿を今、息子に見せつけられている。因果応報とはよく言ったものですね。

社会人のスタートはリクルート。職人さん専門の求人広告の営業マンでした。毎日飛び込み営業で自分の知らない世界を見せてもらいました。サボったことも数知れず。営業時間に同期とカラオケに行き、お店を出たら上司と遭遇し、きつく絞られたことも思い出す。こんな私で

## 「手考足思（しゅこうそくし）※」の日々②

学 40 小山 貴子

も先輩・同僚、お客様に恵まれ、仕事の楽しさを周りの人が教えてくれました。30代後半は大学に入り直して建築の勉強をしたり、料理教室の先生のアシスタントをしたり、着物を着て生活してみたり、いろいろ悩みながら自分の好きなことを模索。結局、人事の世界に戻り、社会保険労務士という資格を取った後、独立しました。環境的にも、性格的にも冒険をするような人生とは無縁の幼少期を過ごしましたが、最初の会社がそれを変えてくれました。

興味のままに生きてきたおかげで違った視野をもらい、これが今の仕事を支えてくれているように思います。声をかけていただいたことに「はい！」と返事をし、都度まわりの方が知らない世界に連れて行ってくださいました。ご縁をいただき、現在、2社の上場企業の非常勤役員も務めています。

父は棺桶に入る時『あー、いい人生だった！』と思ってくれたのだろうか？とよく思います。息子にはそう思って欲しい。だからこそ、私は毎日のように悩みながら手考足思の旅を続けます！

※大正から昭和にかけて活躍した陶芸作家・河井寛次郎の言葉。「手を動かして考え、自分の足で歩きながら思いをめぐらせる」



## 下宿のオバサン①

学28 今泉一隆

昨年10月に大学柔道部の同窓会があり3年ぶりに帰郷した。

長く会っていなかった先輩、同級、後輩の諸氏との再会は楽しみだったが、同窓会の前に最近医療施設に入られていたオバサンも訪ねたかったのだ。

私が卒業する時にオバサンは“私ももうごんじゅ（50歳）になったよ。”と言っていたから、彼女も既に93歳になられたと思う。

最近ちょっと認知症の気があり、3年前にインドから帰った時も“あんた誰ね？”と言っておられたから、最近どうされているか気になっていた。

だが嬉しいことにこないだ訪ねた時は私が下宿時代に大変迷惑をかけていた今泉クンであることはちゃんと覚えていてくれた。

私は大学に入学するまでは有明海の片田舎にいたので、人との付き合い方も知らぬド田舎者であった。自分に全く自信がなく田舎言葉丸出し、学力は適当、柔道はいつも一回戦で負けていた私を、世の中に通用するような人間に育ててくれたのはオバサンだと思っている。

入学当初は本学の近くに下宿したが、2年で経済学部に移るにあたり柔道部の先輩が紹介してくれたのが、この下宿だった。

そんなにきれいなところでもなかったが、英彦山が窓から見えて眺望のいい場所にあり、我々と同世代のお子さん3人おられ、その中のお嬢さん2人は別格の美人だった。部屋代のみの間借りの身分だったが、頻りに下宿人たちに声を掛けてもらい、タダメシによばれ、オジサンの晩酌にも付き合っていたので、ほぼ居候のような身分だった。

何の取柄もない田舎者の下宿人に、引っ込み思案はやめて前へ出る。この人はどこか見所があるとおだててくれ、オバサンなりの人生観をコンコンと教えてくれた。もっと自分に自信を持て。男に顔のいい悪いは関係ない。学校の成績だけが頭のいい証拠ではない。彼女もおらず女性にもずいぶん振られたが、あの女どもは男を見る目がないといつも慰めてくれていた。オバサンは体こそ小さかったが、高等女学校を出た才女で結構はっきり物を言う人だった。多分敵も多かっただろうと思う。

長崎はずいぶん人のいい街だとは聞いていたが、正直あんな人がいるとは思ってもみなかった。勉強もせず酒ばかり飲みまわってずいぶん悪さもしたが、あの時代のことは未だに忘れることが出来ない。

大学を出て社会人となり、取り敢えず名前もあまり知られていない船会社に勤めた。その後運良く結婚し3人もの子供に恵まれたが、深刻な海運不況も経験し、止むをえない転職も2度やった。以降は英語も全く出来ないのに海外駐在へ3度も行き、都度現地での新規事業の立ち上げを命じられ、言葉の違う異文化の人達を相手に藻掻き格闘した。結構波乱に富んだ会社人生であったが、過ぎてみるとこの40年余りは実に面白かった。

後から考えてみるとあの根拠のない自信はオバサンに貰ったものではなかっただろうか。自信はなくても人前に出て人格をさらけ出し、頭のいい悪いは関係ない、男は見栄えを気にしない、俺は嘘だけはつかないと胸を張り、文化の違いをもちもせず、身振り手振りで物おじせず

## 下宿のオバサン②

学 28 今泉 一隆

に議論をする勇氣は、やはりあの頃から身についたのだろう。

お陰様で世界のあちこちに心から信用のできるいい友達ができた。楽しい仕事があった。あの人がいなかったらここまでいろんな経験はしなかっただろう。

今でも長崎はそんな優しい街だろうか？

いや今でも絶対変わっていない。10月に帰った時もオバサンは待っていてくれた。同世代だったオバサンの息子さん、お嬢さんもあの今泉くんが帰ってくると待っていてくれて、同じ下宿だった同窓生も一緒に来て、あの頃のお愛もない話を延々としてくれた。

もうビジネスでは老害の時代も乗り越えた自分に、現役の経済学部後輩にしてやれる立派な話題も殆どないが、学生時代の思い出はと問われると、一番に来るのは柔道ではない、ゼミでもない、お諏訪さんの少し上にあった下宿とそこに居られた世話好きのオバサンではないだろうか。滲み出るような人の良さをベースに、人間性こそが最も大事だと説いてくれた、今でも本当に有難い人だと思う。



写真中央が筆者の今泉一隆氏



## 八大学ラグビー OB 会に参加して①

学 31 井上 勝康

今を去る44年前（昭和54年）に私は、長崎大学経済学部に入學した。入學と同時に何もわからない状況のなか、強引な入部勧誘にあい経済学部ラグビー部に入部した。強引な勧誘を受けたのは私が高校で陸上部だったためだが、入部後に競技種目が走高跳だったことがわかり諸先輩方の期待が一気に盛り下がったのを今でもよく覚えている。経済学部で過ごした4年間は、ラグビー部入部のお陰で入學前に思い描いた学生生活とは程遠いものとなった。

毎年のゴールデンウィークは、芙蓉館（ほとんど廃屋のような情景が思い浮かぶ建物でした）に下宿から布団を持ち込みラグビー部の合宿で4年間を過ごした。

青春期の楽しい思い出を作るために旅行やレジャーに親しむということもなく、女子学生と楽しくサークル活動などと言うこともなく当初思い描いた学生生活とは似ても似つかないことになった。むしろ、正反対のきつい、汚い、危険な、まさに3Kなスポーツであるラグビーに若き日のエネルギーのほとんどを投入して過ごした。

何を好き好んで学生時代の4回しかないゴールデンウィークをラグビー合宿に費やしたか。今考えても、確たる答は見えてこない。しかし、3Kであるがゆえに勇気、忍耐、チームへの貢献が要求されるラグビーというスポーツは忘れることできない強烈な体験となって、今も仕事や生活のいたるところで自分を支えてくれている。

ラグビーと出会って過ごした大学4年間の後もラグビーとの縁は切れることなく続き、今日に至っている。現在は、経済学部ラグビー部はすでに消失し、OB会のみ西陵ラガー OB 会と称して存続し、私も事務局のような立場で関わっている。

西陵ラガー OB 会の活動内容は、主に二つあり一つに会員間の親交・交流と二つ目には八大学ラグビー OB 会（北海道から九州までの国立大学のラグビーを愛する OB が八校集まって毎年親善大会と年末に日本ラグビーに関係の深い方をお招きして講演会を行っている）の運営に参加することである。（八大学ラグビー OB 会の概要は下記）

西陵ラガー OB 会も八大学ラグビー OB 会もコロナ禍で休止を余儀なくされていたが今回3年ぶりに講演会を行うこととなった。講師に日本ラグビー協会会長の土田雅人氏をお招きし、本年1月12日に無事に開催の運びとなった。（土田氏の講演の内容、略歴は下記）

土田氏の講演で私が強く印象に残ったことは、ラグビーの「五つの価値観」（コアバリュー）について語られたところであった。

「品位（Integrity）、情熱（Passion）、結束（Solidarity）、規律（Discipline）、尊重（Respect）」わたしは、先にラグビーの強烈な体験が今も仕事や生活のいたるところで自分を支えてくれていると書いたが、今考えてみればこの支えてくれているものの正体がこのラグビーの「五つの価値観」ではなかったかと思う。

卒業して早いもので40年が経過し、職業生活も終盤となってきた。最初の10年は、証券会社での営業、その後縁あってソニー生命保険で保険セールスとして30年を過ごしてきた。不安定で厳しいフルコミッションの保険セールスの世界で30年にわたり生き残れたのは、ラグビーで体得した「五つの価値観」に支えられてのことと今は確信している。

2019年のラグビーワールドカップ日本大会の大成功もあり、ラグビーは人気スポーツとして脚光を浴びているが、多くの青少年がラグビーというスポーツに親しみ、ラグビーの「五

## 八大学ラグビー OB 会に参加して②

学 31 井上 勝康

つの価値観」触れることを心から望むものである。



(左から四人目が筆者、中央は講師の土田雅人氏)

### 記

(八大学ラグビー OB 会の概略)

- ・八大学ラグビー OB 会：1989 年の第 1 回大会より毎年ラグビーの OB 戦を開催
- ・長崎大学経済学部ラグビー部は、第 10 回大会より名古屋大学とともに参加、六大学ラグビー OB 会から八大学ラグビー OB 会に名称変更
- ・講演会：1997（平成 9）年以降、日本ラグビーに関係される様々な方々を講師にお迎えし、毎年講演会を開催してきたが、コロナ禍のため中止を余儀なくされ 3 年ぶりに講演会を再開
- ・講演者：日本ラグビーフットボール協会 会長 土田雅人氏

サントリー酒類株式会社 専務執行役員 首都圏営業本部長

- ・演 題：日本ラグビーフットボール協会の目標と取り組み並びにマネジメント
- ・八大学ラグビー部：

北海道大学、小樽商科大学、帯広畜産大学、東北大学、  
東京海洋大学、名古屋大学、九州大学、長崎大学

- ・会 場：小山台会館（品川区）
- ・日 時：令和 5 年 1 月 12 日（木）19:00 開演
- ・懇親会：大学別テーブル

## 八大学ラグビー OB 会に参加して③

学31 井上 勝康

(長崎大学経済学部ラグビー部参加者)

伊藤 正 (学18)、宮本秀雄 (学19)、国広昭彦 (学29)、井上勝康 (学31)  
 赤木浩一 (学34)、安成真彦 (学34)、林田圭史 (学35)、中村 勲 (学36)  
 江口耕一郎 (学38)、紀伊博孝 (学38) 以上10名

(講演会の主な内容)

- ・ラグビー独自の特性と理念をフィールドオブプレーの中でも外でも守っていくための世界共通の手引きである「ワールドラグビー・ラグビー憲章」がある。
- ・ラグビー憲章において、ラグビーの5つのコアバリューとして「品位・情熱・結束・規律・尊重」の5つの言葉がある。
- ・これは、選手、指導者、関係者、ファンなど、ラグビーに関わる全ての人々に共有してほしい価値観である。
- ・全員が心をついに一体感を持つ、すなわち One Team となるための最も基本となる考え方、価値観。
- ・この考え方は、ビジネスの世界でも有効。
- ・自分自身がサントリーの監督として経験したマネジメントのノウハウはビジネスでも同じ。いかに選手をマネジメントするか、会社の組織運営と同じだと思う。
- ・所謂優秀な選手だけでなく、独特の考え方を持っている意外性のある選手も大事。ビジネスにおいても常識にとらわれない考え方が、常識を打破する。
- ・外国人選手も中学生くらいから日本に来る傾向が増えている。日本のラグビーだけではない教育システムが評価されている。
- ・2039年にラグビーワールドカップを日本への再招致したい。

(経済学部ラグビー部 OB 会の活動予定等)

- ・2023年2月 西陵ラガー OB 会役員会
- ・2023年4月 西陵ラガー OB 会総会
- ・2023年5月 八大学ラグビー OB 会親善大会
- ・2023年12月 八大学ラグビー OB 会年末講演会

## 経済学部→ジュリアード音楽院、そしてプロギタリストへ①

学 48 益田正洋 (プロ・クラシックギター奏者)

**Q. まずは経済学部卒業生としての自己紹介をお願いします。**

1978 年長崎市生まれ、諏訪幼稚園→勝山小学校→長崎中学校→長崎東高等学校と進んだ後、長崎大学経済学部には 1996 年に入学 (卒業:2000 年) しました。所属ゼミは「国際投資論」(田口ゼミ)、卒業論文のテーマは「ユーロ導入と周辺諸国に与える経済的影響についての考察」です。

**Q. それでは、プロのギター奏者としての生き立ちをお願いします。**

4 歳の頃に両親の影響でギターを始め、大学卒業後ニューヨークにある名門音楽大学のジュリアード音楽院で学びました。

中学 1 年生の時に全国コンクールにて史上最年少 (12 歳) で優勝、その後国際ギターコンクールにも挑戦し入賞しました。また、中学 2 年でデビュー演奏会を開き、ジュリアード在学中には海外デビュー、スペイン演奏ツアーも実現させました。卒業後は、「ギターの魅力や音楽の楽しさを、より多くの人に知って欲しい!」をモットーに、さまざまなイベントへのゲスト出演、また音楽と美術のコラボ企画を立ち上げたりなどして頑張っています。

**Q. Amazon などでも益田さんの CD がたくさん発売されていますね。**

30 枚をリリース (2023 年 4 月現在) しました。雑誌や新聞でも好評をいただいたり、日経新聞の名物コーナー「交遊抄」にも登場させていただきました。

**Q. 現在「日本を代表するギタリスト」と紹介されている益田さんが、ギターを始められたきっかけは?**

長崎市内でギター教室を主宰する父の影響ですね。小学生の頃から「将来の夢はギタリスト!」と毎日練習していました。

**Q. でも高校卒業後プロデビューではなく、経済学部進学を決めたのは?**

両親が「大学生までは進路を限定せず、いろいろなことを学ばせよう」という子育て方針だったためです。地元の名門校でもある経済学部に入学を決めました。

**Q. ギター以外に好きなこと、趣味などは?**

小学校～高校の頃まで羽生善治さんに憧れて将棋も好きになり、父や友達と対局していました。あとは幼稚園生の頃から野球少年で、野球観戦や毎日のように友達と近所の公園で遊んでいました。

**Q. 大学在学中はどんな学生生活でしたか?**

友達の家で呑んだり、遊んだり、バイトしたり・・・もちろん勉強も (笑) ごく普通の大学生活でしたよ。

サークルには所属しませんでした。学内のギター部に遊びに行ったり、在学中から経済学部マンドリンクラブの同窓会組織「長崎マンドリンクラブ OB・OG 会」の皆さんと親交を持ち、会のイベントにゲストとして出演させていただきました。

## 経済学部→ジュリアード音楽院、そしてプロギタリストへ②

学48 益田正洋 (プロ・クラシックギター奏者)

**Q. そんな普通の大学生だった貴方が、卒業後プロを志し、長崎からニューヨークへと旅立ったわけですね？**

子供の頃からの夢を叶えるための研鑽を積むべきと思い、本物のクラシック音楽を学ぼうとジュリアード音楽院進学を選びました。でも、いきなり大都会、しかも初めての海外生活に悪戦苦闘でした。

**Q. 留学中の思い出があれば聞かせてください。**

最も印象に残っているのはアメリカ同時多発テロ事件ですね。長崎で生まれ育った僕にとって身近でテロが起きることは想像も出来ませんでした。

**Q. 今までで経済学部同窓生とのエピソードとかありますか？**

日本への一時帰国の際、先輩のお宅に居候させていただいたり、帰国後に最初に住んだアパートも先輩の紹介でした。しかも都内では破格の家賃で、まだ仕事も少なかったので本当に助かりました。今でも同窓生の皆様にコンサートに足を運んでいただき、本当にお世話になりっぱなしです。

**Q. これからのコンサート予定などあれば、ご紹介ください。**

5月末には京都でコンサート、6月には新しいCDのリリース、夏には故郷九州でコンサート、秋にはオーケストラとの共演やソロリサイタル（千葉県浦安市）が予定されています。

SNS(Twitter や Facebook, Instagram)や YouTube でもコンサート情報を随時発信しています。また公式 HP でもスケジュールを確認できます！（「益田正洋」で検索してください！）

故郷を離れて早いもので20年です。急に故郷が恋しくなることもあり、そんな時に同郷や同窓の方々にお会い出来ると心が和みます。是非皆様今後とも応援よろしくお願ひします。

応援しております！また是非お話を訊かせてください！



写真中央が筆者の益田正洋氏



## 長崎マンドリンアンサンブル（NME）16 回ファミリーコンサート開催 学 12 川口 恒夫

瓊林会会員を中心に東京地区で活動する NME では、コロナ禍のため延期していた「第 16 回ファミリーコンサート」を 3 年振りに公益社団法人瓊林会及び瓊林会東京支部後援のもと、令和 4 年 11 月 26 日に北千住のシアター 1010 で 20 名のメンバーにより開催いたしました。

これは母体の長崎マンドリンクラブ OB & OG 会より 1 年早い再開となりました。

コロナ懸念が続いていましたので、万全な対策を施した会場にご来聴頂いた方は、従来の半数位の 40 名弱に留まりましたが、皆様には熱心に耳を傾けて頂きました。

その中には国広瓊林会東京支部長、牧野事務局長の姿もありました。又堀内副支部長には当日の司会進行役を立派に務めて頂きました。

演奏曲は、お馴染みのゴッドファーザーメドレー・Life is Beautiful のような映画音楽のテーマ曲やバレエ組曲「くるみ割り人形」より花のワルツ、いのちの歌、ハナミズキ、哀しみのソレアード～アルベデルチ・ローマ、水車小屋の娘たちのようなポピュラー曲、そして最後にアンコール曲の長崎の鐘で締め括りました。

マンドリンはギターと同じく「リュート」という撥弦楽器を祖先とする楽器で、17 世紀中頃にイタリアで誕生しました。マンドリンは 4 対 8 弦あり、各弦の音階はバイオリンと全く同じ楽器です。ただ持ち方が異なり、バイオリンは弓で弾き、マンドリンは通常べっ甲製のピックを使いトレモロやピッキング奏法で演奏します。

現在、我々が使っているマンドリンは @ 50 万円位の値段ですが、年代物になると @ 100 万円以上にもなりますが、バイオリンとは比べ物にならない位手頃な楽器です。

因みに我々が経済マンクラに入部した時に初めて手にしたマンドリンは @ 6000 円の物でしたので、丁度四畳半部屋で 3 食付きの下宿代 1 カ月分相当のお値段でした。

今回初めて当日録音した演奏を 5 曲ほど「瓊林友の会」の専用ネットに配信してもらい、当日会場に行けなかった方々にもパソコンやスマホで聴いて頂きました。

中にはパソコンで再生していた演奏を偶々訪問して来た方が耳にして「あら素敵なマンドリンの音色ですね」と言われて驚きました、という先輩の方からのお便りもありました。この話を聞いて、ちょっぴり嬉しく幸せな気持ちになった次第です。



## 囲碁海外遠征（2）中国編①

学12 高本 正

前号で囲碁海外遠征（1）韓国編を寄稿した、今回は中国編である。

中国への囲碁遠征は敬愛する牛島さんに依存するところが多く、牛島さんを紹介しておかねばならない。彼は瓊林会会員ではなく、私が勤務した日本IBMで1964年東京オリンピックの年の同期入社の人である。私は23歳だが、彼はすでに30歳大学卒の入社年齢制限ぎりぎり、私より7歳も上だった。牛島さんとは58年の永い付き合いである。

彼は中国大連生まれの引揚者で、大連で中学校まで通ったそうである。

日本IBMには勤続25年でリフレッシュ休暇の制度があり、彼は生まれ故郷の大連に中国語の勉強に行った。大連市民と囲碁交流を語り、多くの囲碁友達ができたという。

私は彼にお願いして大連市民と日本IBMの囲碁仲間の交流を語ることにした。確か1990年に始まったと思う、最初の大連訪問は高齢の呉忠明さんと東大出の宋さんという美人が迎えてくれ印象深かった。私は団長として中国から漢字や仏教、をはじめ多くのことを特に囲碁という文化も中国から教わったので、父なる国として感謝していると挨拶し、拍手喝采を受けた。初回は日本側の参加者は18名で土曜日に午後から和やかに対局し、その後懇親会、中国語のできない私はもっぱら筆談で会話を楽しんだ。大連市民は大学教授や技術系の職業の人が多かった。

翌日は旅順の二百三高地や、旅順博物館、水師営を観光した。それ以来中国訪問が続き、大連での囲碁大会後に中国の有名な観光地を回ることになり、初めのころは大連の旅行社がガイドしてくれた。中ごろからは横浜にある日中平和観光という旅行社が旅程をたててくれた。中国訪問は多岐にわたる。

### 1. 重慶から武漢まで、2泊3日の船下りである三峡下り

この三峡下りは三峡ダムができて無くなった。

### 2. シルクロードの旅 ウルムチ・トルファン・天池

この2回目のシルクロードの旅から家内も同行するようになった。

家内は初めての海外旅行がこのシルクロードの旅であった。

トルファンというところはオアシス都市で世界中で海から最も遠い陸地だということだった。ブドウの名産地、天山山脈から流れる水をくむカレーズを見た。

### 3. 雲南省の旅 石林・麗江・シーサンバンナ

シーサンバンナはタイとの国境で野生の像を見た。

麗江は玉竜雪山からの雪解け水が清流となって流れる古都であった。

### 4. 内蒙古の旅 フフホト

草原の中のパオで満天の星を仰いだ。

### 5. 北京から西安の旅 八達嶺・兵馬俑、

西安郊外の兵馬俑は秦の始皇帝が作らせた兵馬の埴輪

### 6. 敦煌の旅 嘉峪関・鳴沙山・莫高窟

敦煌に行くには、通常敦煌空港を利用するのだが、工事中で東隣の嘉峪関空港に降りたのは幸運であった。なかなかいくことのできない万里の長城の西の端である嘉峪関を見ることができた。ゴビ砂漠の中に立派な城楼が残っていた。

莫高窟では限られた時間で、貴重な壁画や仏像を見学した。

鳴沙山はまさに月の砂漠であった。

7. 上海の旅 蘇州・広州・杭州

8. 満州の旅 瀋陽・長春・長白山

朝鮮との国境に聳える長白山は朝鮮側では白頭山と呼んでいる。

山頂に天池が美しい水を湛えている。

9. 黄山の旅

10. 四川の旅 都江堰・三星堆遺跡・パンダ国立飼育センター・九寨溝黄龍

九寨溝は清流が流れるなかに多くのエメラルド色の美しい池や瀧がある。

最も印象に残っているのは珍珠潭、真珠のような水玉が無数の転げるように流れる、こんな自然があるのかと思える美しい景観であった。

お隣の黄龍はカルスト地形、段々に連なる池が無数にあり美しい水を湛えている。

11. 桂林の旅

このように 10 回を超える思い出に残る旅の連続であった。

大連で親切に迎えていただいた呉忠明さんも亡くなられ、牛島さんも米寿の高齢になられ、中国への囲碁遠征は終結した。大連囲碁チャンピオンの張さんは囲碁普及に努められ 1000 人の生徒を抱える囲碁学校を営んでおられる。



俳句同好会より

学12 稲山 清紀

山下 勉(学9 所沢市)

高齡の歩こう会の息白し

故郷の若布酢物に味噌汁に

高本 正(学12 品川区)

外濠に黄葉の筏や大いちよう

四つ角をこちらに曲がれと金木犀

瓊林俳句会会員募集中

月一回・月額二千円

長崎県東京産業支援センターにて開催

連絡先 瓊林会東京支部

(03 6240 0532)

西尾 智博(学11 東久留米市)

祖母ちゃんと赤飯配り七五三

家事手伝い妻に勤労感謝の日

野村方昭(学12 さいたま市)

冬ぬくし寝息に閉じる童話集

落柿舎の歪むガラス戸落箆

稲山 清紀(学12 四街道市)

雨戸開け二人暮らしの初明かり

潮騒の肌差す風や春障子

山内 裕介(学16 豊島区)

房総や波頭にくづる初日の出

水鉢に落ち葉を秘めて初氷

岩下 芳和(学12 八王子市)

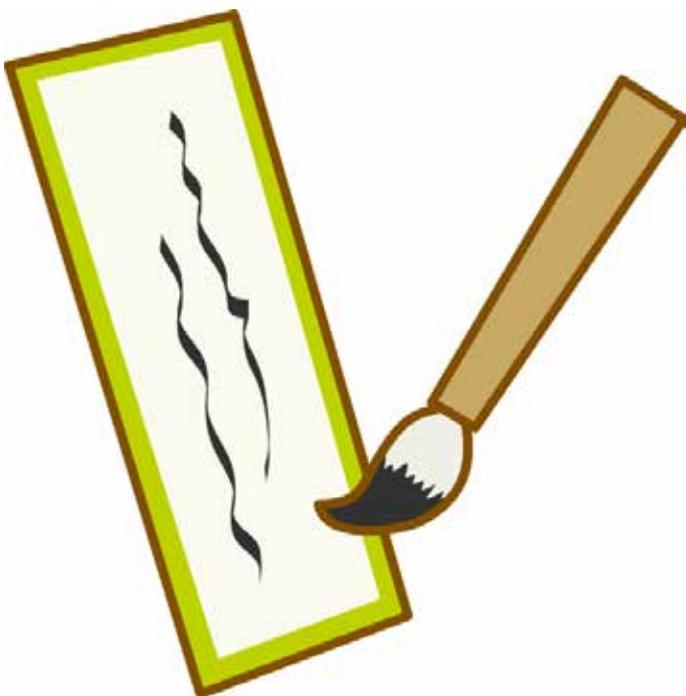
林檎熟る信濃の空を引き寄せて

席ゆずる外つ国の人小六月

井口 篤子(学20 横浜市)

秋の空朱鷺の飛翔を見入りをり

五人が吾ひとりになりし小正月



## 長崎市恐竜博物館ご案内①

長崎市東京事務所

令和 3 年 10 月 29 日、長崎市南部の野母崎地区に、日本で 3 番目となる恐竜専門の博物館が誕生しました。世界最大級のティラノサウルスの全身骨格標本レプリカをはじめ、長崎で発見された貴重な実物化石など数多くの標本を展示しています。

長崎市に恐竜博物館を建設した背景には、長崎と恐竜の深いつながりがあります。昭和 37 年 6 月、長崎市南西部の高島炭鉱から、日本の恐竜研究の口火を切る化石が発見されたのです。現在は哺乳類の化石とされていますが、かつては「日本初の恐竜化石」として注目を集めました。平成 16 年には長崎県初の恐竜化石を発見、その後も国内初となるティラノサウルス科大型種の歯の化石をはじめとした多種多様な化石が白亜紀後期の三ツ瀬層（約 8000 万年前）から見つかっています。また、長崎は「恐竜」という言葉を作り出した古生物学者の横山又次郎の出身地でもあります。横山氏は、出島で阿蘭陀通詞を務めた横山家の次男で、ドイツ留学を経て東京帝国大学教授となり、日本の化石研究の基礎を築いた人物で、日本の古生物学の父と称されています。

恐竜博物館は、長崎の資料を収集、保管し、国際的に通用する調査研究を実践する施設、恐竜を中核とした長崎の魅力について子どもから大人まで楽しめる施設、研究成果の情報を広く分かりやすく提供し、更なる魅力を高める施設、知的関心や学校教育のニーズ、及び地域を育む学習を支援する施設の 4 項目を基本理念としています。延床面積は、約 2,594㎡と比較的コンパクトな施設ですが、他の博物館と異なる 2 つの大きな特徴があります。

一点目は、長崎市と姉妹都市であるオランダのライデン市にある国立博物館「ナチュラリス生物多様センター」が所有するティラノサウルス・レックスのレプリカを日本で唯一展示していること。トリックスという愛称があり、世界最大級で保存状態の良いティラノサウルスの一つです。

二点目は、常設展示室に設置した大開口の窓から、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である端島（通称 軍艦島）や海原を見渡すことが出来ます。季節、時間帯及びカーテンの開閉によって、展示物の様子も刻一刻と変化しますので、来館の度に異なる表情をご覧になれます。

常設展示室では、長崎の自然史や大量絶滅など 5 つのテーマを設定し、ストーリーに沿って太古から現代までの長崎を学ぶことが可能です。長崎市で発見された化石を中心に約 180 点を展示するほか、最新の学術研究に基づき再現した恐竜ロボットや A R（拡張現実）技術を活用した映像コーナー等も設置しています。また、調査研究の様子や、収蔵庫、研究設備等を無料で見学できるオープンラボを配置しており、国内の自然史博物館では僅かしかない X 線 CT システムも完備しています。

開館から 1 年を過ぎ、入館者は建設計画時に想定していた 1 年間 12 万人を大きく上回り、令和 5 年 1 月には 30 万人を突破しました。調査研究についても、令和 3 年度は 270 点の化石

## 長崎市恐竜博物館ご案内②

長崎市東京事務所

標本を発掘したほか、令和4年10月には、本市で3例目となるティラノサウルス科の化石発見の報告を行いました。

恐竜博物館の開館は、地域にも好影響を及ぼしており、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、博物館のある野母崎地区を訪れる方が増加しています。また、博物館の建設決定以降、飲食店の新規オープンやタコ祭り等の新規イベント実施が相次いでおり、地域経済の活性化にも寄与しています。

今後につきましては、調査研究成果を基にした展示物の追加やリニューアルに取り組むほか、施設を管理する指定管理者と連携し、魅力的な企画展や講演会の開催やワークショップや教育養成プログラム等の体験型イベントを積極的に実施し、何度でも訪れたいくなる博物館を築いていきたいと考えています。

恐竜博物館が所在する長崎のもぞき恐竜パーク内には、世界文化遺産の軍艦島の歴史を紹介した軍艦島資料館や恐竜を模した大型遊具を有する子ども広場、毎年12月下旬から1月中旬にかけて一面に水仙の花が咲く水仙の丘などがあり、子どもから大人まで1日中楽しめる施設になっています。長崎市を訪れる際は、ぜひ野母崎地区まで足をお運びください。皆様のお越しをお待ちしております。



恐竜博物館外観



ティラノサウルス（愛称トリックス）



ティラノサウルス科復元ロボット（全長6m）



無料で見学可能なオープンラボ

敬 弔

「東京瓊林 150 号（2022 年 1 月末現在）」の発行後、

次の方々の訃報に接しました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

卒回	お名前	ご逝去日
高商 37 回	柴田 明様	2022 年 6 月 3 日 金曜日
経専 43 回	浜口 文伍様	2022 年 5 月 29 日 日曜日
経専 43 回	渡辺 敏幸様	2020 年 5 月 5 日 火曜日
経専 43 回	増崎 昭夫様	2022 年 6 月 14 日 火曜日
経専 43 回	秀島 仁哉様	2022 年 10 月 29 日 土曜日
学部 01 回	松浦 謙二様	2021 年 7 月 24 日 土曜日
学部 01 回	友成 和康様	2022 年 8 月 26 日 金曜日
学部 03 回	林田 富人様	2022 年 1 月 2 日 日曜日
学部 04 回	吉本 孝様	2022 年 9 月
学部 05 回	井手 明生様	2022 年 2 月 16 日 水曜日
学部 05 回	山田 道弘様	2022 年 12 月 3 日 土曜日
学部 09 回	外尾 仁様	2022 年 3 月 11 日 金曜日
学部 10 回	江口 健様	2022 年 5 月 17 日 火曜日
学部 10 回	山道 勲様	2022 年 6 月 27 日 月曜日
学部 10 回	甲斐 正郎様	2022 年 5 月 16 日 月曜日
学部 12 回	野中 茂美様	2023 年 1 月 1 日 日曜日
学部 12 回	西 宏様	2023 年 1 月 15 日 日曜日
学部 12 回	永富 洋二様	2021 年 10 月 25 日 月曜日
学部 16 回	林 史隆様	2022 年 11 月 7 日 月曜日
学部 18 回	福山 泰博様	2022 年 10 月 14 日 金曜日

## 令和4年度(2022年)会費納入者一覧(敬称略)

(令和5年1月末現在)

会費納入いただきありがとうございました。

卒回	お名前	卒回	お名前	卒回	お名前
学部 01	碓 毅	学部 08	西山 正昭	学部 11	西尾 智博
学部 01	友成 和康	学部 08	馬場 日出美	学部 11	原岡 宏
学部 01	松岡 眞男	学部 08	浜口 孝昭	学部 11	松尾 晋
学部 02	岩永 寿郎	学部 08	林 英男	学部 11	松尾 重徳
学部 02	柄本 貞丸	学部 08	外尾 勉	学部 11	丸本 雄三
学部 02	仮戸 健	学部 08	松井 有	学部 11	三谷 彬明
学部 02	小林 茂男	学部 08	牟田 辰雄	学部 12	稲山 清紀
学部 02	竹本 健二	学部 08	米良 康二	学部 12	岩下 芳和
学部 02	徳本 雄一郎	学部 08	毛利 寿男	学部 12	内野 鐵平
学部 03	浦川 延喜	学部 08	森田 弘昭	学部 12	小倉 勇
学部 03	島田 辰義	学部 08	萬木 勇	学部 12	川口 恒夫
学部 03	津村 好計	学部 08	山口 信明	学部 12	岸川 博
学部 03	永留 光之	学部 08	米丸 昭夫	学部 12	高本 正
学部 03	中山 琢磨	学部 09	石原 芳昭	学部 12	迫本 正記
学部 03	松尾 栄	学部 09	伊津野 平	学部 12	澤部 壽孫
学部 03	三田村 博生	学部 09	大久保 哲夫	学部 12	園田 明
学部 04	倉地 完一	学部 09	小川 渚	学部 12	高岡 芳徳
学部 04	陣川 継治	学部 09	川崎 弘	学部 12	永柄 賢次
学部 04	中西 武重	学部 09	北村 義三	学部 12	中川 義文
学部 04	福田 誠一	学部 09	木村 耕三	学部 12	中島 明
学部 04	吉本 孝	学部 09	佐藤 徹	学部 12	西 宏
学部 05	内山 淳見	学部 09	高瀬 健二	学部 12	野中 茂美
学部 05	甲木 英光	学部 09	田中 明久	学部 12	野村 方昭
学部 05	藤井 美智子	学部 09	辻 敏彦	学部 12	平野 勝利
学部 05	山川 譲	学部 09	外尾 仁	学部 12	藤井 健二
学部 05	山田 道弘	学部 09	中村 正晴	学部 12	本松 健治郎
学部 06	入佐 輝男	学部 09	宮川 弘	学部 13	大隈 征次郎
学部 06	川島 勉	学部 09	山下 勉	学部 13	熊野 東男
学部 06	古賀 章生	学部 10	一ノ瀬 正喜	学部 13	佐々木 浩
学部 06	福井 弘志	学部 10	一ノ瀬 義之	学部 13	佐多 直治
学部 06	藤 俊伸	学部 10	井元 明暢	学部 13	柴田 清廣
学部 06	三根 吏	学部 10	江口 繁唯	学部 13	中村 正克
学部 06	村上 文夫	学部 10	岡藤 幸策	学部 13	東島 靖人
学部 06	毛利 龍猪	学部 10	小川 俊明	学部 13	平川 秀人
学部 06	吉野 岑生	学部 10	甲斐 正郎	学部 13	松尾 信孝
学部 07	蔵屋 勝敏	学部 10	梶山 正博	学部 13	彌富 克彦
学部 07	副島 邦雄	学部 10	許斐 幹彦	学部 13	吉川 優
学部 07	堤 昇	学部 10	貞方 士郎	学部 14	伊東 義人
学部 07	寺田 政輝	学部 10	高嶺 朝映	学部 14	上村 伍朗
学部 07	原田 義之	学部 10	竹崎 勲	学部 14	内野 武夫
学部 07	平川 公己	学部 10	藤松 謙治	学部 14	黒山 久章
学部 07	益田 元一	学部 10	本多 昌幸	学部 14	後藤 純郎
学部 07	横川 等	学部 10	光永 久之	学部 14	重藤 和基
学部 07	横沢 弘溶	学部 10	宮本 祥行	学部 14	藤村 建夫
学部 08	秋山 宏二	学部 10	屋敷田 賢作	学部 14	安田 正秀
学部 08	工藤 欽伍	学部 10	吉村 秀雄	学部 15	足立 鉄生
学部 08	黒田 勲	学部 11	石田 昌吉	学部 15	川寄 滋
学部 08	豊田 安鴻	学部 11	小林 憲正	学部 15	河野 正一
学部 08	長野 寛	学部 11	徳久 忠正	学部 15	佐々木 和行
学部 08	中村 政治	学部 11	長野 英明	学部 15	橋本 貞夫

## 令和4年度(2022年)会費納入者一覧(敬称略)

(令和5年1月末現在)

会費納入いただきありがとうございました。

卒回	お名前	卒回	お名前	卒回	お名前
学部 15	平川 文彦	学部 20	井口 篤子	学部 25	上田 直
学部 15	堀居 堅	学部 20	井芹 護	学部 25	宇野 芳晴
学部 15	榎本 和裕	学部 20	内川 博文	学部 25	小城 政文
学部 16	上野 昭男	学部 20	河野 泰樹	学部 25	辻 二男
学部 16	大塚 保	学部 20	坂木 茂美	学部 25	中尾 宏幸
学部 16	谷 雅陽	学部 20	佐藤 芳和	学部 25	藤井 松太郎
学部 16	中島 純忠	学部 20	武野 勝次	学部 25	三木 修
学部 16	中山 作富	学部 20	千原 篤	学部 25	三石 信志
学部 16	東 幸彦	学部 20	西橋 時男	学部 25	宮川 博幸
学部 16	藤田 優	学部 20	橋本 俊介	学部 25	宮崎 一郎
学部 16	前田 正昭	学部 20	藤原 慎一郎	学部 26	城見 浩一
学部 16	村高 誓司	学部 20	藤野 進	学部 26	松村 弘
学部 16	山内 裕介	学部 20	松本 康	学部 27	大家 善助
学部 17	内田 重樹	学部 20	山内 朗	学部 27	窪田 完二
学部 17	小関 尚英	学部 21	井上 直樹	学部 27	高橋 亨
学部 17	草野 耕二	学部 21	岩倉 史佳	学部 28	今泉 一隆
学部 17	荘 敏幸	学部 21	小野 等	学部 28	竹内 浩一
学部 17	智多 昌憲	学部 21	佐藤 洋二	学部 28	原田 主税
学部 17	藤井 吉弘	学部 21	田中 健一	学部 28	福田 和太
学部 17	藤田 基	学部 21	内藤 幸雄	学部 28	古川 清
学部 17	見崎 俊輔	学部 21	平山 修	学部 28	古瀬 稔
学部 18	有富 武司	学部 21	南 隆一	学部 28	山中 虎男
学部 18	伊藤 正	学部 21	山口 康一	学部 29	石井 博史
学部 18	井原 弘道	学部 21	吉田 綱一朗	学部 29	小川 常司
学部 18	小倉 孝司	学部 22	有馬 慎太郎	学部 29	大久保 健
学部 18	柿田 寛	学部 22	井上 正則	学部 29	河内 優子
学部 18	重松 義章	学部 22	岩崎 茂	学部 29	國廣 昭彦
学部 18	高橋 道雄	学部 22	川内 静久	学部 29	合屋 隆司
学部 18	田中 洋	学部 22	坂本 修一	学部 29	高野倉 丈利
学部 18	塚本 徳男	学部 22	宮本 貫治	学部 29	中川 和彦
学部 18	徳重 克己	学部 23	荒川 克彦	学部 29	藤井 茂樹
学部 18	永田 勇夫	学部 23	小泉 文則	学部 29	藤田 克子
学部 18	中野 栄次	学部 23	林 俊也	学部 29	堀内 宇
学部 18	橋口 孜	学部 23	原田 英博	学部 29	牧野 陽一郎
学部 18	溝田 信太郎	学部 23	松尾 肇	学部 29	松本 正信
学部 18	森部 良広	学部 23	満崎 周夫	学部 29	村上 真由美
学部 18	山野 澄雄	学部 23	渡辺 一博	学部 29	森 厚憲
学部 18	吉田 一久	学部 23	渡部 良次	学部 29	渡邊 俊介
学部 18	萬屋 鴻嗣	学部 24	井上 隆	学部 30	大賀 雅徳
学部 19	井上 健一郎	学部 24	江上 寛	学部 30	木村 直樹
学部 19	江川 次雄	学部 24	恵崎 隆彦	学部 30	國清 敏之
学部 19	江崎 秀昭	学部 24	大串 憲一	学部 30	野中 秀樹
学部 19	酒井 哲	学部 24	甲斐田 雄三	学部 31	井上 勝康
学部 19	薩本 猛夫	学部 24	金野 正英	学部 31	金丸 逸郎
学部 19	菅原 義文	学部 24	中村 博	学部 31	釜我 利彦
学部 19	田中 義和	学部 24	野見山 隆志	学部 31	岸川 泉
学部 19	中村 光昭	学部 24	畑野 耕逸	学部 31	原田 稔
学部 19	宮本 秀雄	学部 24	山口 勝美	学部 31	平島 晃二
学部 19	矢野 博文	学部 24	山本 洋市	学部 31	山岡 千秋
学部 19	山野 セツ子	学部 24	吉田 均	学部 32	森 日出樹

# 令和 4 年度 (2022 年) 会費納入者一覧(敬称略)

(令和 5 年 1 月末現在)

会費納入いただきありがとうございました。

卒回	お名前
学部 34	赤木 浩一
学部 34	中村 寛彰
学部 35	安野 倫男
学部 35	荒嶽 敏幸
学部 35	白居 のぞみ
学部 35	波戸 省子
学部 35	林田 圭史
学部 35	堀田 毅
学部 35	山崎 慶子
学部 36	市田 孝二
学部 36	井上 順二
学部 36	松尾 真也
学部 37	窪田 昌洋
学部 37	森田 毅矢
学部 38	堤 洋一郎
学部 39	香山 明子
学部 39	村田 瑞枝
学部 40	小山 貴子
学部 40	宮崎 貴士
学部 41	今橋 義孝
学部 41	宮脇 英寿
学部 41	松岡 利秀
学部 42	加々山 亮介
学部 45	小野 正芳
学部 51	周 仲
学部 54	金澤 孝典
学部 54	川島 幸成
学部 63	西窪 浩祐
学部 63	山崎 真由美
大学院 15	西崎 信男

令和 4 年度 支部への寄付者御氏名

(令和 5 年 1 月末現在)

卒回	お名前	卒回	お名前
学 05 回	山田 道弘様	学 21 回	吉田 綱一郎様
学 09 回	大久保 哲夫様	学 23 回	渡辺 一博様
学 09 回	川崎 弘様	学 23 回	松尾 肇様
学 10 回	井元 明暢様	学 24 回	井上 隆様
学 12 回	西 宏様	学 28 回	山中 虎男様
学 14 回	重藤 和基様	学 29 回	増田 義弘様
学 18 回	吉田 一久様	学 31 回	金丸 逸郎様
学 18 回	中野 栄治様	学 45 回	小野 正芳様
学 21 回	小野 等様		
学 21 回	田中 健一様		(敬称略)

ご寄付いただきありがとうございました。

## 東京支部 2022 年度決算見込み及び 23 年度予算案

(2022 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日)

単位：円

		2021	2022		2023
		決算 (実績)	予算	決算 (見込)	予算 (案)
収入	年会費	1,376,000	1,600,000	1,320,000	1,400,000
	寄付金	81,000	90,000	129,000	100,000
	總會	0			480,000
	広告	0			
	賛助金	41,400	40,000	220,453	200,000
	預金金利	19	19	21	21
	助成金	0			
	業務委託費	300,000	300,000	300,000	300,000
	会合費	0	150,000	232,000	90,000
	雑収	0		20,456	
	計	1,798,419	2,180,019	2,221,930	2,570,021
支出	總會	0	100,000	165,681	1,000,000
	会報費	214,664	200,000	200,000	200,000
	業務委託費	500,000	500,000	500,000	500,000
	会合行事	11,921	550,000	757,518	90,000
	通信費	312,244	300,000	276,080	300,000
	旅費交通費	147,220	100,000	93,869	100,000
	家賃	240,000	240,000	240,000	240,000
	光熱費	23,682	24,000	27,098	30,000
	振替手数料	34,057	35,000	39,616	40,000
	事務用品	100,092	250,000	224,596	20,000
	印刷	9,803	20,000	73,430	30,000
	雑費	87,470	50,000	89,476	20,000
	計	1,681,153	2,369,000	2,687,364	2,570,000
収支	117,266	-188,981	-465,434	21	
前期繰越	1,995,776	2,113,042			
次期繰越	2,113,042	1,924,061	1,647,608	1,647,629	

## 瓊林会東京支部 役員体制

令和 4 年 6 月より、下記役員にて、東京支部の運営を行っております。  
 「人の集まりやすい支部へ」「東京支部活性化」を目指して、活動しています。  
 今後とも、皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。

役職名	氏名	卒回
支部長	国広 昭彦	学部29回
副支部長	吉田 綱一郎	学部21回
副支部長	堀内 宇	学部29回
副支部長	安野 倫男	学部35回
副支部長	堀田 毅	学部35回
副支部長	中村 奈美	院 16回
事務局長	牧野 陽一郎	学部29回
監事	三木 修	学部25回
運営委員	中川 和彦	学部29回
運営委員	渡邊 俊介	学部29回

瓊林会東京支部活動を活性化するためには、役員だけでは十分とはいえません。

支部活動を応援していただける方は、お申し出ください。

会報の編集・総会準備など、項目ごとへの応援でも結構です。

また、各回生におかれましては、卒回毎に幹事を選出していただくようお願いいたします。

## 事務局からのお願い

### ■同窓会会費の納入のお願い

2023年度会費の振込票を同封しております。

同窓会は、会員の皆様方の会費で運営されております。できるだけ多くの会員の皆様にご支援いただければ円滑な運営につながります。「人の集まる」魅力的な同窓会を目指して活動してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

次年度の活動計画作成のため、2023年12月末までに納入頂ければ幸いです。

### ■会費額／振込先

会費：学部卒7000円（内訳：本部（公益）3000円＋支部4000円）

振込先：郵便振替口座 00160-2-15617

※同封の振込み用紙をお使いください

### ■会員情報の登録について

瓊林会東京支部では、ホームページを開設しています。

トップページの右側に配置されている、『会員登録』のボタンを押すと、瓊林会会員移動報告兼登録の欄が出てきますので、まだ会員登録、移動報告、Eメール登録をされていない方はご登録よろしくお願いたします。

また、同期生の方々の情報をお持ちでしたら、お寄せ下さい。

### ■東京瓊林 152 号原稿募集

東京支部では、2024年3月発行予定の会報誌「東京瓊林 152号」の原稿を下記のとおり募集致します。

#### 記

- |                                       |          |
|---------------------------------------|----------|
| 1. 同期会                                | 2,000字以内 |
| 2. クラブ・ゼミOB・OG会                       | 2,000字以内 |
| 3. 趣味の会                               | 2,000字以内 |
| 4. 追悼文（東京支部会員に限る）<br>（故人のお写真もお願いします。） | 2,000字以内 |
| 5. 旅行記・学生時代の思い出                       | 2,000字以内 |
| 6. コロナ禍に関連する生活・対策・情報等                 | 2,000字以内 |
| 7. 私の近況                               |          |

### ■原稿締切：2024年1月末

■原稿送付方法：メール（添付ファイル）で頂けますと編集が簡略化できますので、ぜひお願いいたします。

写真も1～2枚添付してください。

卒回（又は、卒業年度）をご記入ください。

会報誌へ広告掲載が可能な方は、事務局へご連絡ください。

### ■原稿の送付先

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-10-2

長崎県東京産業支援センター 301号室

メール：info@tokyo-keirin.jp

電話：03-6240-0532

## 表紙紹介

### 「長崎駅周辺整備事業と西九州新幹線」

長崎市では、100年に1回の変革期と言われ、長崎駅周辺、新市庁舎の建設、スタジアムシティの建設等大規模な事業が進んでいます。

駅周辺整備事業は、開通した西九州新幹線に合わせて、東口駅前広場や新駅ビルの建設など駅周辺区画整理事業、浦上駅手前からの長崎本線連続立体交差事業を通じて陸の玄関口として魅力向上を図り、交流人口の拡大により市の人口流出に歯止めを掛ける事業です。

来年秋には、新駅ビルの完成、2025年には東口駅前広場・多目的広場の完成で完了となります。2025年は、長崎高等商業学校設立120周年の年にあたり、他の大規模事業と合わせ、魅力あふれる新たな長崎市になることでしょう。

今回の表紙の写真は、学29回川崎圭一氏が撮影されたものです。川崎氏に感謝すると共に、表紙を飾る写真・絵画の皆様のご提供をお待ちしています。

## 編集後記

昨年度は、7月にリモートですが定時総会を開催し、11月には「クラシックギターと懇親の夕べ」を開催し、with コロナで少しずつ通常の支部活動を再開しました。新型コロナの終息は見通せないものの、今回の会報誌に掲載したように、普段の生活や同窓会活動、囲碁、音楽、俳句等々平時に近づいてきています。今後も、会報誌を通じて、皆様の元気なご様子をお伝えできればと思います。

今回の発行に当たり、寄稿いただいた皆様、ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。引き続き、幅広い年代の皆様からご寄稿いただきたく、お願い申し上げます。

編集担当 牧野 陽一郎 (学29)

## 東京瓊林 151 号

2023年3月10日発行

発行所：瓊林会東京支部

〒160-0004

編集者：牧野 陽一郎 (学29)

東京都新宿区四谷 1-10-2

長崎県東京産業支援センター 301

誌面作成・デザイン：

電話：03-6240-0352

株式会社 ONE HUNDRED

FAX：03-6240-0531

東京支部のホームページでは、今後とも内容充実を図ってまいりますので、ぜひアクセスしてください。



瓊林会 東京支部

東京瓊林 表紙ギャラリー

東京瓊林

第147号 平成31年3月発行



(ダリア園)



瓊林会 東京支部

147号

東京瓊林

No.148  
2018.3



(Lake Park)



瓊林会 東京支部

148号

東京瓊林

No.149  
2019.3



(山崎)



瓊林会 東京支部

149号

東京瓊林

No.150  
2022.3



(比叡メッセ新館)



瓊林会 東京支部

150号